MITSUBISHI 三菱電機 室内ユニット

販売店・工事店さま用

R410A対応

PFAV-P1120LM-E-L
PFAV-P1120LM-E-R
PFAV-P1400LM-E-L
PFAV-P1400LM-E-R

据付工事説明書

本説明書は室内側ユニットの据付方法を記載しています。
室外側ユニットの据付方法は、室外側ユニットの据付工事説明書に記載されております。

● この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付けの前に、室外ユニット付属の説明書と併せて、本説明書を必ずお読みください。

〔もくじ〕 〔ページ〕

※安全のために必ず守ること ……1～3
1．据付場所の選定 ……4～8
2．製品の受け入れ ……9～13
3．ドレン配管 ……14
4．冷媒配管・ドレン配管仕様 ……15～16
5．電気配線 ……17～30
6．試運転方法 ……31～35
7．L形、R形の並列配置について ……36
8．ダクト接続の設置に関するご注意 ‥37
9．高圧ガス明細書 ……37

室内ユニット付属品の確認

本ユニットには、以下部品が付属されていますので据付前に確認してください。

付属品	個数
ザツキタッピンネジ　M5×14	30
ザツキタッピンネジ　M5×20	5
吹出ダクトフランジ	1

〔据付けされる方へのお願い〕

室内ユニットの梱包に据付報告書と保証書がセットになって入っていますので、据付けをされる方は必ず全項目を書入れ捺印の上、下記宛にご報告願います。保証書だけお客様にお渡しください。
据付報告書と保証書の配布方法は次のとおりです。
据付報告書 ……特約店、
販売店経由 販売会社経由 三菱電機(製作所)用
保証書 (A)……貴店の控
(B)……特約店、販売店の控
(C)……販売会社経由 三菱電機(製作所)用
(D)……お客様控
不明の点がありましたら、三菱電機の担当営業所へご照会ください。

据付工事説明書内で、安全のために必ず守っていただく項目を ⚠警告 ⚠注意 の形で記載しました。

安全のために必ず守ること

●据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認すると共に、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れの仕方等を説明してください。
また、この据付工事説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管いただくように依頼してください。
また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼してください。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

据付けは、質量に十分に耐える所に確実に行ってください。
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、発煙、発火等の原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行ってください。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒーター等の別売品は、必ず、当社指定の製品を使用してください。
また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

改造は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店にご相談ください。
修理に不備があると水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気してください。
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行ってください。
据付けに不備があると、水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、発煙、発火の原因になります。

室外ユニットの端子台カバー（パネル）を確実に取付けてください。
端子台カバー（パネル）取付けに不備があると、ほこり・水などにより、発煙、発火、感電の原因になります。

据付けや移設の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外のものを混入させないでください。
空気などを混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂などの原因になります。

小部屋へ据付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。

エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者にご相談ください。
据付けに不備があると水漏れや感電、発煙、発火等の原因になります。

据付けをする前に

⚠注意

可燃性ガスの漏れるおそれがある場所への設置は行わないでください。
万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、発火の原因になります。

特殊環境には、使用しないでください。
油・蒸気の多いところや、酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等を頻繁に使用するところで使用しますと、性能を著しく低下させたり、感電、故障、発煙、発火等の原因になります。また、有機溶剤、腐食ガス（アンモニア、硫黄化合物、酸　等）の雰囲気では、ガス漏れ、水漏れの原因になります。

食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。
食品の品質低下等の原因になります。

濡れて困るものの上にユニットを据付けないでください。
湿度が80%を超える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので、必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを十分に行って施工してください。
インバーター機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になります。

据付け（移設）・電気工事をする前に

⚠注意

アースを行ってください。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電、発煙、発火およびノイズによる誤動作の原因になります。

電源配線は張力がかからないように配線工事をしてください。
断線したり、発熱・発煙、発火の原因になります。

正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器〈開閉器＋B種ヒューズ〉・配線用遮断器）を使用してください。
大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や発煙、発火の原因になります。

製品の運搬には、十分注意してください。
20kg以上の製品の運搬は、1人でしないでください。
製品によってはＰＰバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
熱交換器のフィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
包装用のポリ袋で子供が遊ばないように、破いてから廃棄してください。窒息事故等の原因になります。
室外ユニット等吊りボルトによる搬入を行う場合は、確実に4点支持で実施してください。3点支持等で運搬・吊下げしますと不安定となり、落下の原因になります。

長期使用で据付台等が傷んでいないか注意してください。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、けが等の原因になります。

エアコンを水洗いしないでください。
感電の原因になります。

電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

電源配線は、電流容量、規格品の配線にて工事をしてください。
漏電や発熱・発煙、発火の原因になります。

ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう保温してください。
配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

ドレン配管の断熱は結露しないように確実に行ってください。
不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して露タレ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因となります。

梱包材の処理は確実に行ってください。
梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますとさし傷などのけがをするおそれがあります。

試運転をする前に

⚠注意

運転を開始する12時間以上前に電源を入れてください。
故障の原因になります。
シーズン中は電源を切らないでください。

運転中にパネルやガードを外したまま運転をしないでください。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻込まれたり、やけどや感電によるけがの原因になります。

運転中の冷媒配管に素手で触れないでください。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や火傷になります。

濡れた手でスイッチを操作しないでください。
感電の原因になります。

エアフィルターを外したまま運転しないでください。
内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

運転停止後、すぐに電源を切らないでください。
必ず5分以上待ってください。
水漏れや故障の原因になります。

冷媒R410A使用機器としての注意点

⚠注意

既設の冷媒配管を流用しないでください。
・既設の配管内部には、従来の冷凍機油や冷媒中の塩素が大量に含まれ、これらの物質が新しい機器の冷凍機油劣化等の原因になります。
・R410Aは高圧冷媒のため配管の破裂等の原因になります。

冷媒配管はJIS H3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のリン脱酸銅を使用してください。また、管の内外面は美麗であり、使用上有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉、油脂、水分等（コンタミネーション）の付着がないことを確認してください。
また、配管の肉厚は所定のもの(P15参照)を使用してください。
冷媒配管の内部にコンタミネーションの付着があると、冷凍機油劣化等の原因になります。

据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともロウ付する直前までシールしておいてください。（エルボ等の継手はビニール袋等に包んだ状態で保管）
冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分が混入しますと、油の劣化・圧縮機故障の原因となります。

フレア・フランジ接続部に塗布する冷凍機油は、エステル油又はエーテル油又はアルキルベンゼン（少量）を使用してください。
鉱油が多量に混入すると、冷凍機油劣化の原因となります。

液冷媒にて封入してください。
ガス冷媒で封入するとボンベ内冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

R410A以外の冷媒は使用しないでください。
R410A以外（R22等）を使用すると、塩素により冷凍油劣化等の原因になります。

逆流防止器付真空ポンプを使用してください。
冷媒回路内に真空ポンプ油が逆流し、機器の冷凍器油劣化等の原因になります。

下記の工具はR410A専用ツールを使用する。
R410A用として下表の専用ツールが必要となります。
お問合わせは最寄りの「三菱電機システムサービス」へご連絡ください。

工具名	
ゲージマニホールド	フレアツール
チャージホース	出し代調整用銅管ゲージ
ガス漏れ検知器	真空ポンプ用アダプター
トルクレンチ	冷媒充てん用電子はかり

工具類の管理は従来以上に注意してください。
冷媒回路内にほこり、ゴミ、水分等が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。

チャージングシリンダーを使用しないでください。
チャージングシリンダーを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

〈システム構成〉 本製品は以下の構成となっております。

セット形名	室内ユニット	室外ユニット
PFHV-P1120LM-E-L（左配管仕様）	PFAV-P1120LM-E-L	PUHV-P280LM-E（4台）
PFHV-P1120LM-E-R（右配管仕様）	PFAV-P1120LM-E-R	
PFHV-P1400LM-E-L（左配管仕様）	PFAV-P1400LM-E-L	PUHV-P280LM-E（5台）
PFHV-P1400LM-E-R（右配管仕様）	PFAV-P1400LM-E-R	

1．据付場所の選定

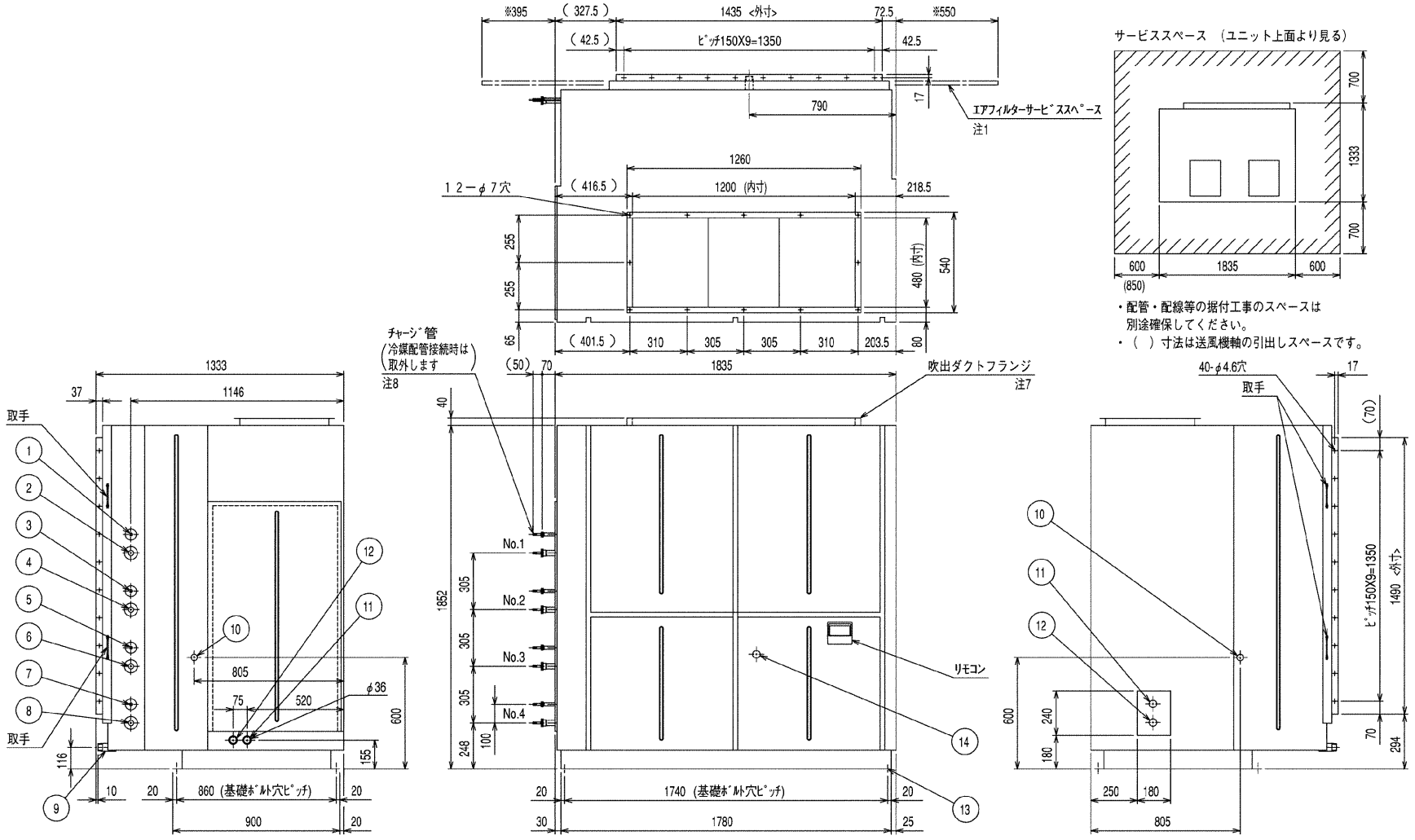
- 吹出空気が部屋全体に行き渡るところ。
- 侵入外気の影響のないところ。
- 吹出空気、吸込空気の流れに障害物のないところ。
- 油の飛沫や蒸気のないところ。
- 可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれのないところ。
- 高周波を発生する機械のないところ。
- 吹出口側に火災報知器（センサー部）が位置しないようにしてください。
  （暖房運転時に吹出温風により火災報知器が誤作動するおそれがあります。）
- 酸性の溶液などを頻繁に使用するところは避けてください。
- 特殊なスプレー（イオウ系）などを頻繁に使用するところは避けてください。
- 腐食ガス、有機溶剤の雰囲気での使用は避けてください。
- 高温多湿雰囲気（露点温度23℃以上）で長時間運転されますと、室内ユニットの結露水が垂れて水漏れに至るおそれがあります。
  そのような条件で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの表面全てに断熱材（10～20mm）を追加し、結露しないようにしてください。
- 室内ユニットを機械室に据付けてダクト接続した場合、機械室内が高温多湿雰囲気になりますと、室内ユニットに結露する場合があります。
  このような場合は、機械室内の空気と室内空気を循環させるなどして、機械室内の温度、湿度を低下させてください。
- 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気口等を設けてください。

1-1．室内ユニットの質量に十分耐える強固な構造の床に据付けます。

⚠警告	**据付けは、質量に十分耐える場所に確実に行ってください。**
	・強度不足の場合は、ユニットの転倒により、ケガの原因になります。

1-2. 外形図

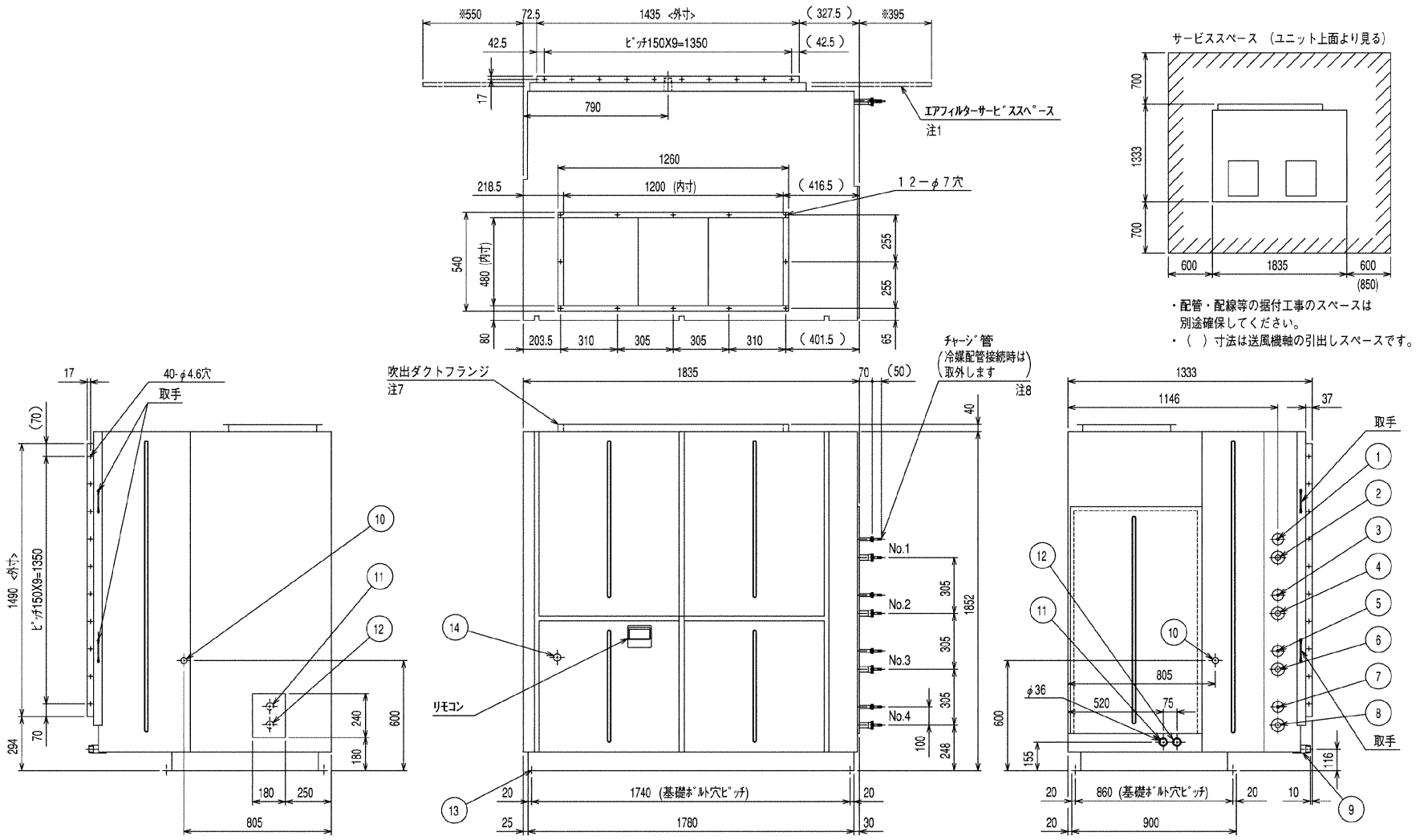
(1) PFAV-P112OLM-E-L



NO.	名 称	NO.	名 称
1	No.1 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	9	ドレン配管 PT1 1/4オネジ
2	No.1 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	10	加湿器接続口 PT1メネジ (水・蒸気スプレー)
3	No.2 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	11	電源取入口 (右側面は現地加工φ30～φ60)
4	No.2 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	12	室内外連絡線取入口 (右側面は現地加工φ30～φ60)
5	No.3 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	13	基礎ボルト用穴 4－φ20穴
6	No.3 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	14	アース端子 (制御箱内に設置)
7	No.4 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>		
8	No.4 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>		

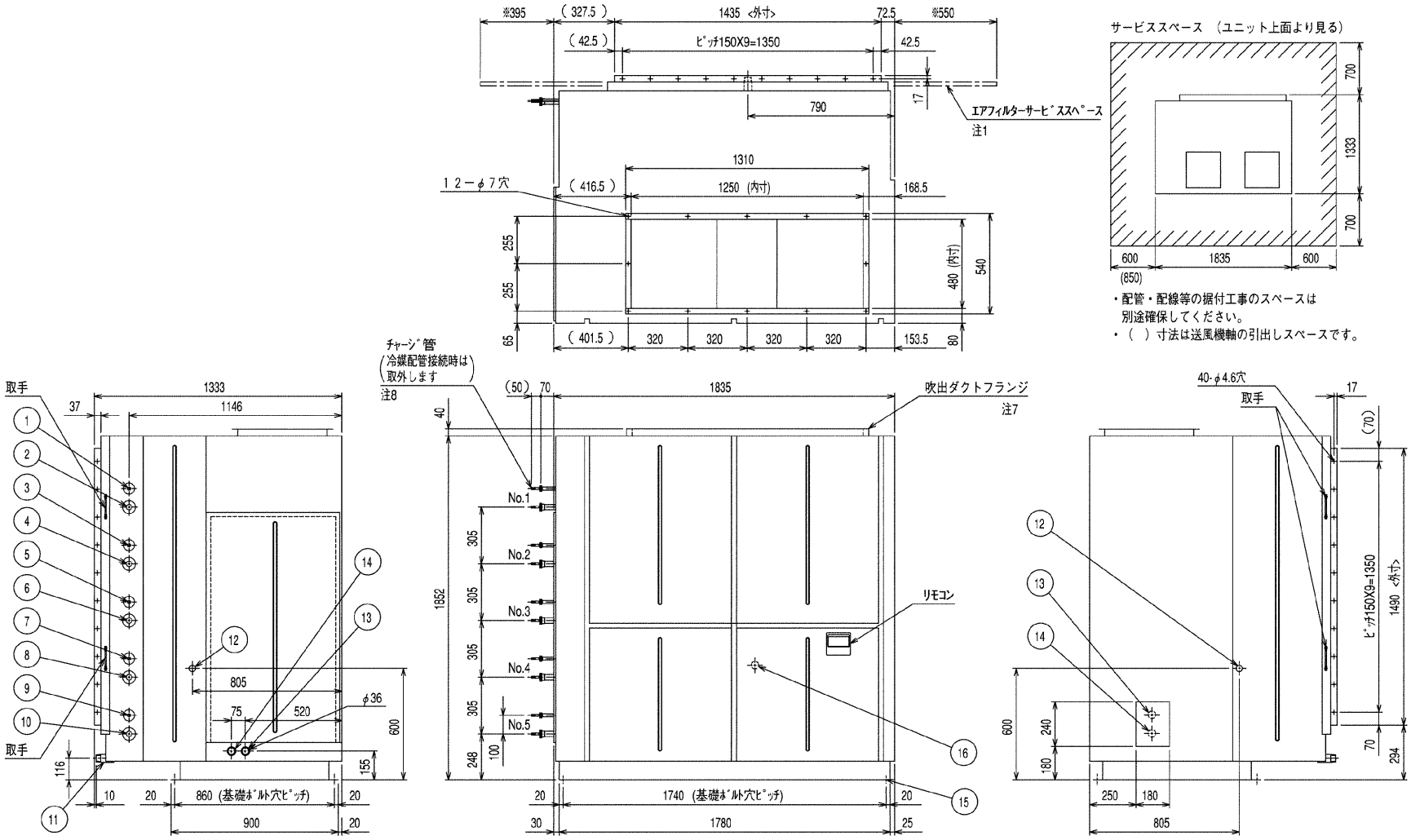
注1. エアフィルターサービススペース「※印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込みはユニット右側面からが標準です。(左側面からの引込みも可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方向はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔を設けてください。
7. 出荷時、吹出ダクトフランジはユニット内に付属しています。
8. チャージ管を取外す際は先端を切断し、ガスを抜いてください。ガスを抜かずに作業した場合、ロウが飛散る等のおそれがあります。
9. 伝送線と電圧２００Ｖ以上の配線は、必ず分けた経路としてください。

(単位 mm)



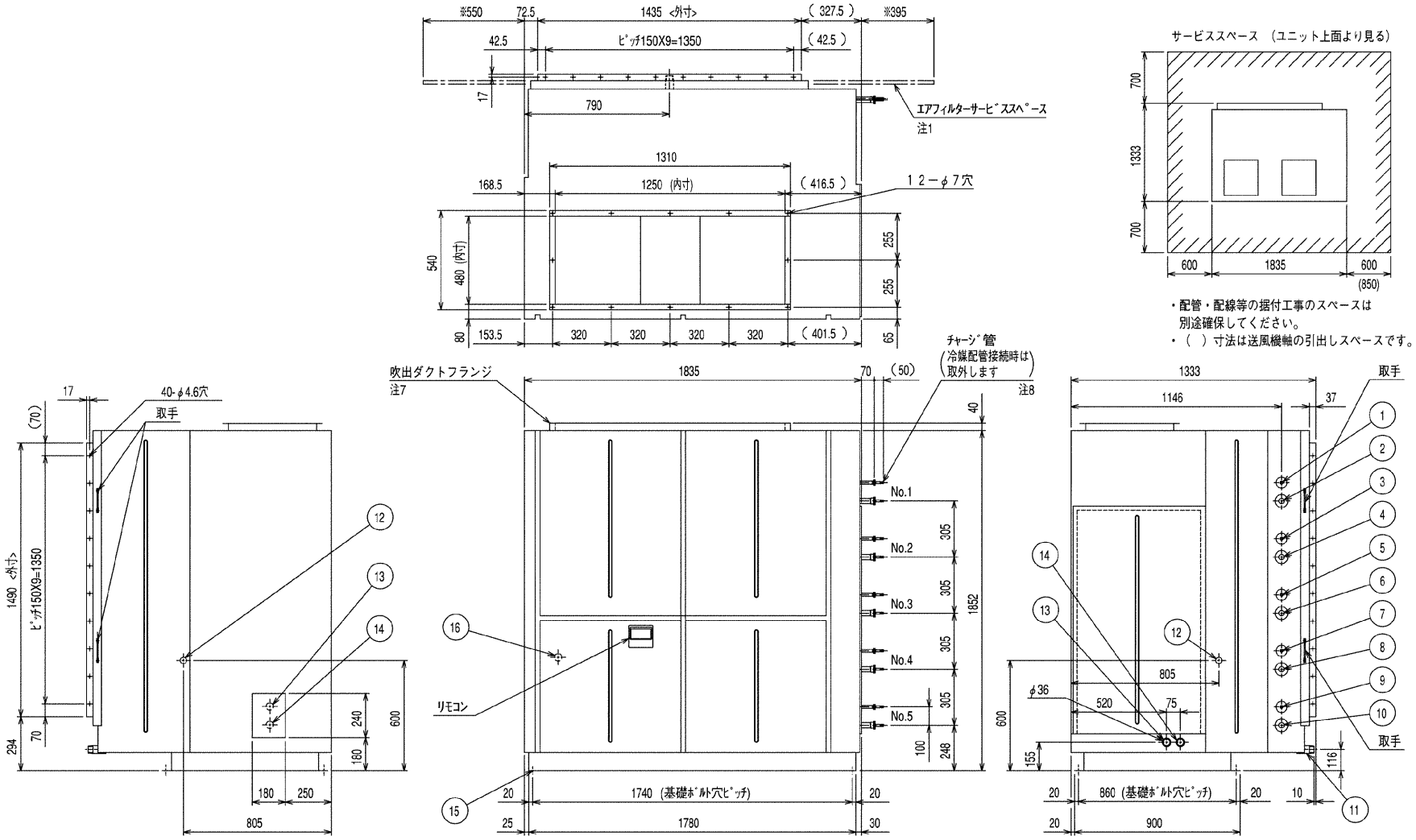
NO.	名 称	NO.	名 称
1	No.1 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	9	ドレン配管 PT1 1/4オネジ
2	No.1 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	10	加湿器接続口 PT1メネジ (水・蒸気スプレー)
3	No.2 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	11	電源取入口 (右側面は現地加工φ30～φ60)
4	No.2 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	12	室内外連絡線取入口 (右側面は現地加工φ30～φ60)
5	No.3 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	13	基礎ボルト用穴 4－φ20穴
6	No.3 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	14	アース端子 (制御箱内に設置)
7	No.4 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>		
8	No.4 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>		

注1. エアフィルターサービススペース「※印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込みはユニット左側面からが標準です。
(右側面からの引込みも可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方向はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔を設けてください。
7. 出荷時、吹出ダクトフランジはユニット内に付属しています。
8. チャージ管を取外す際は先端を切断し、ガスを抜いてください。
ガスを抜かずに作業した場合、ロウが飛散る等のおそれがあります。
9. 伝送線と電圧200V以上の配線は、必ず分けた経路としてください。



NO.	名 称	NO.	名 称
1	No.1 冷媒配管（液） φ9．52<ロウ付>	9	No.5 冷媒配管（液） φ9．52<ロウ付>
2	No.1 冷媒配管（ガス）φ22．2<ロウ付>	10	No.5 冷媒配管（ガス）φ22．2<ロウ付>
3	No.2 冷媒配管（液） φ9．52<ロウ付>	11	ドレン配管 PT1 1/4オネジ
4	No.2 冷媒配管（ガス）φ22．2<ロウ付>	12	加湿器接続口 PT1メネジ（水・蒸気スプレー）
5	No.3 冷媒配管（液） φ9．52<ロウ付>	13	電源取入口 （右側面は現地加工φ30～φ60）
6	No.3 冷媒配管（ガス）φ22．2<ロウ付>	14	室内外連絡線取入口（右側面は現地加工φ30～φ60）
7	No.4 冷媒配管（液） φ9．52<ロウ付>	15	基礎ボルト用穴 4－φ20穴
8	No.4 冷媒配管（ガス）φ22．2<ロウ付>	16	アース端子（制御箱内に設置）

注1．エアフィルターサービススペース「※印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2．電源の引込みはユニット右側面からが標準です。（左側面からの引込みも可能です）
3．ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4．加湿器用の配管接続方向はユニット右側面が標準ですが、左側面接続にも対応可能です。
5．加湿器は受注組込部品となります。
6．設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔を設けてください。
7．出荷時、吹出ダクトフランジはユニット内に付属しています。
8．チャージ管を取外す際は先端を切断し、ガスを抜いてください。ガスを抜かずに作業した場合、ロウが飛散る等のおそれがあります。
9．伝送線と電圧２００Ｖ以上の配線は、必ず分けた経路としてください。



NO.	名 称	NO.	名 称
1	No.1 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	9	No.5 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>
2	No.1 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	10	No.5 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>
3	No.2 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	11	ドレン配管 PT1 1/4オネジ
4	No.2 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	12	加湿器接続口 PT1メネジ (水・蒸気スプレー)
5	No.3 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	13	電源取入口 (右側面は現地加工φ30～φ60)
6	No.3 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	14	室内外連絡線取入口 (右側面は現地加工φ30～φ60)
7	No.4 冷媒配管 (液) φ9.52<ロウ付>	15	基礎ボルト用穴 4－φ20穴
8	No.4 冷媒配管 (ガス) φ22.2<ロウ付>	16	アース端子 (制御箱内に設置)

注1. エアフィルターサービススペース「※印」の寸法をユニットの左側面又は右側面に必ず確保してください。
2. 電源の引込みはユニット左側面からが標準です。
(右側面からの引込みも可能です)
3. ドレン配管はユニット背面から接続してください。
4. 加湿器用の配管接続方向はユニット左側面が標準ですが、右側面接続にも対応可能です。
5. 加湿器は受注組込部品となります。
6. 設置する部屋の気密性が高い場合、室内が負圧となり、部屋の扉が開かない等の問題が発生する場合がありますので、室内が負圧にならないような通気孔を設けてください。
7. 出荷時、吹出ダクトフランジはユニット内に付属しています。
8. チャージ管を取外す際は先端を切断し、ガスを抜いてください。
ガスを抜かずに作業した場合、ロウが飛散る等のおそれがあります。
9. 伝送線と電圧200V以上の配線は必ず分けた経路としてください。

2. 製品の受け入れ

仕様書又は出荷案内書と照合し、部品の不足はないか輸送中の損傷はないかなど現品をよく調べてください。
不足や損傷があれば代理店又は最寄りの当社支社へご連絡ください。

2-1. 搬入（ユニット本体外形寸法は、5～8ページのユニット外形図を参照ください。）

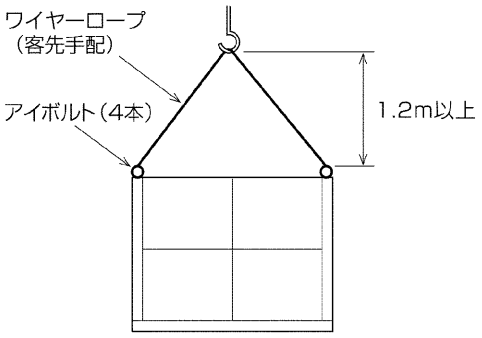
(1) ユニット吊り上げ時の注意

●室内ユニット

ユニットを吊るときは、図1の寸法を守り、吊り上げてください。
吊り上げ時はユニットに付属のアイボルトを利用してください。

製品質量

P1120	P1400
600kg	650kg



【図1】

(2) 室内ユニットの分割搬入

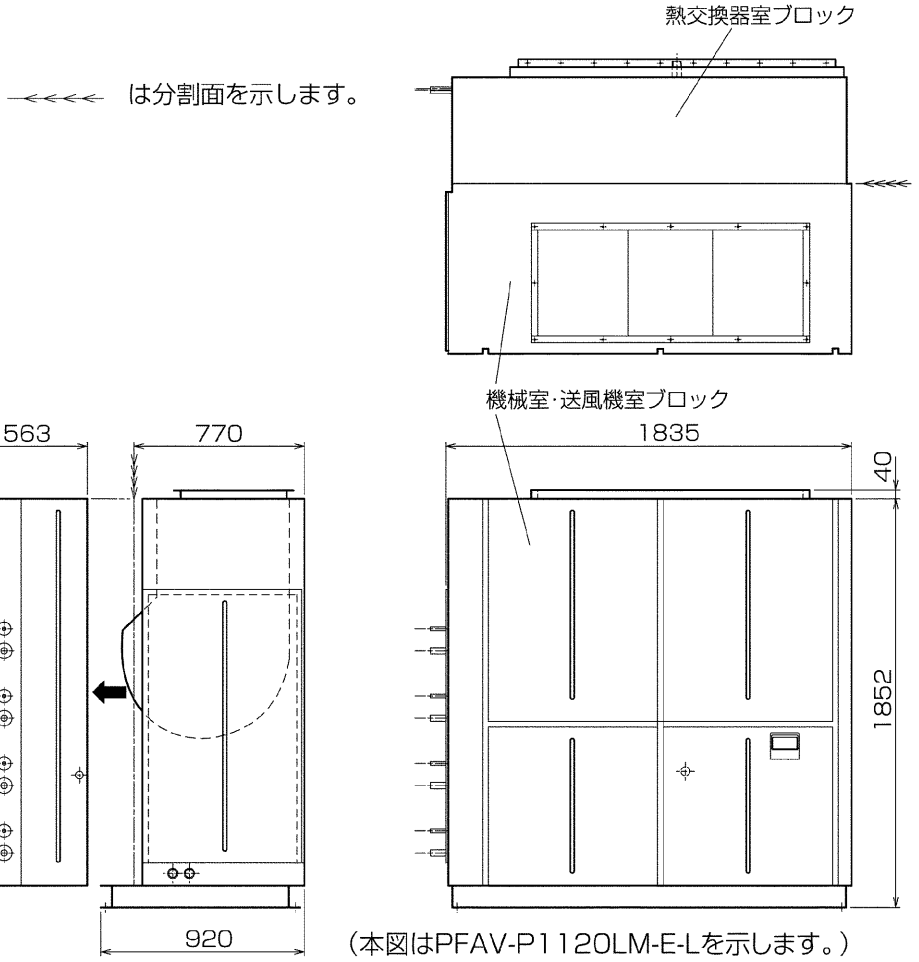
室内ユニットは機械室・送風機室ブロックと熱交換器室ブロックに分割可能です。分割の際は、ユニットを水平な場所に設置後実施してください。

熱交換器室ブロック質量

	質量(kg)
PFAV-P1120LM-E-L,R	180
PFAV-P1400LM-E-L,R	200

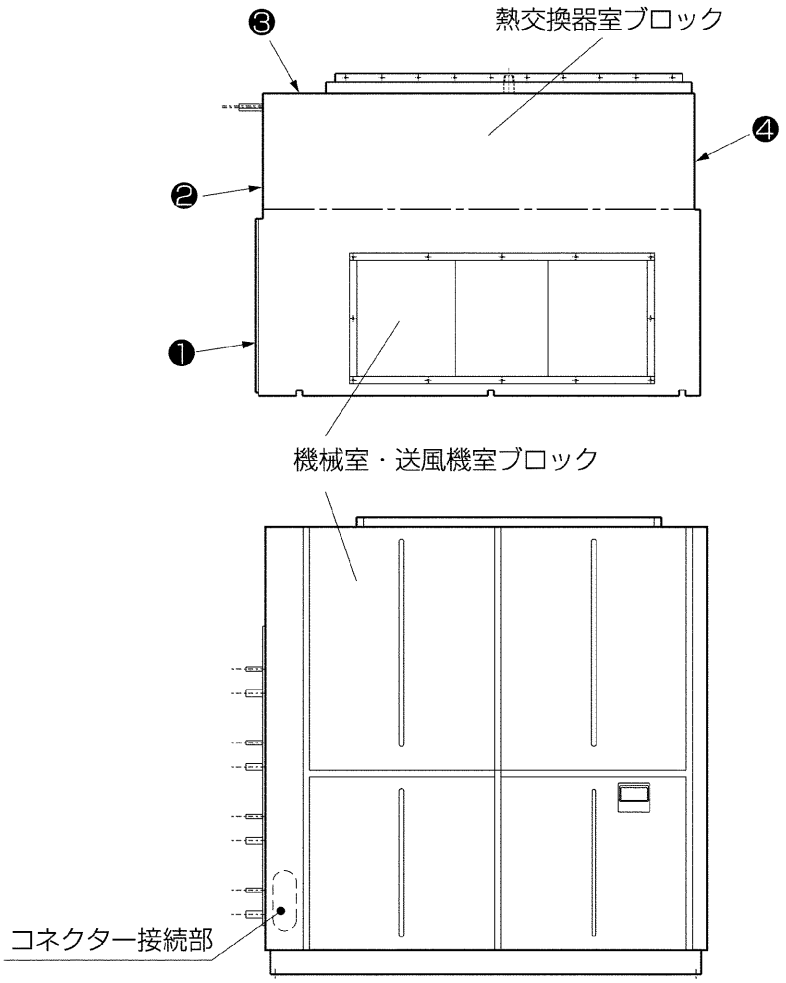
機械室・送風機室ブロック質量

	質量(kg)
PFAV-P1120LM-E-L,R	420
PFAV-P1400LM-E-L,R	450



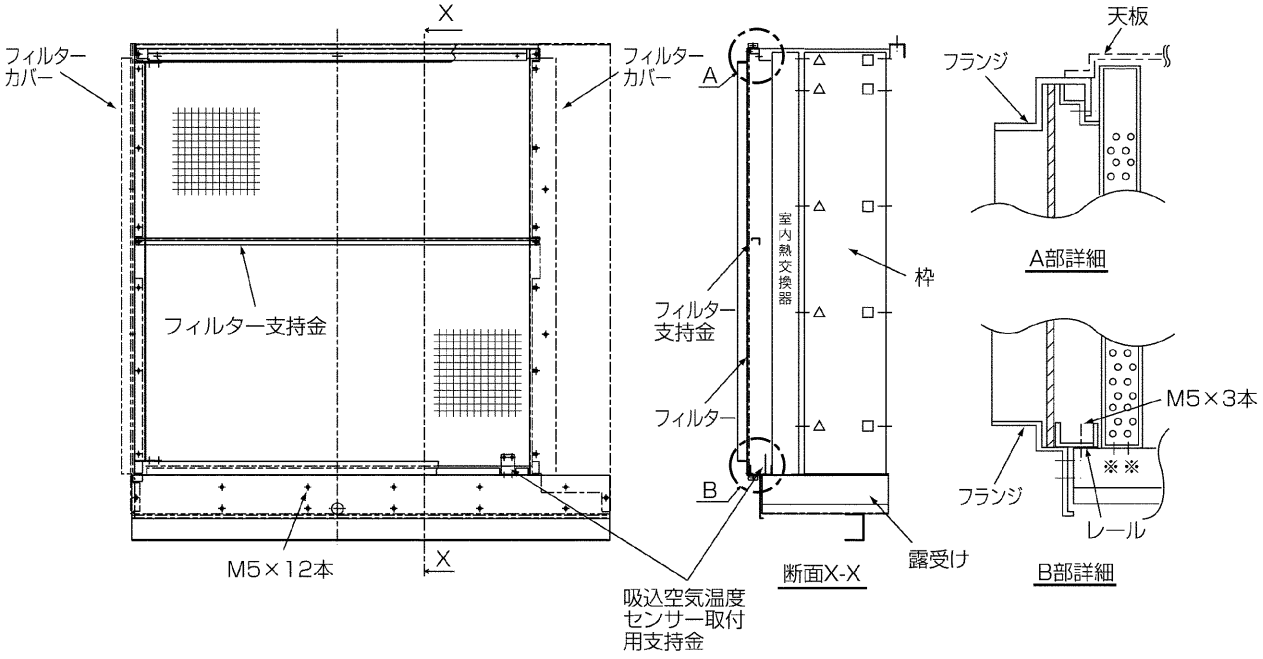
（本図はPFAV-P1120LM-E-Lを示します。）

分割は下記手順にて実施ください。
①外装パネル❶～❹を順に外してください。

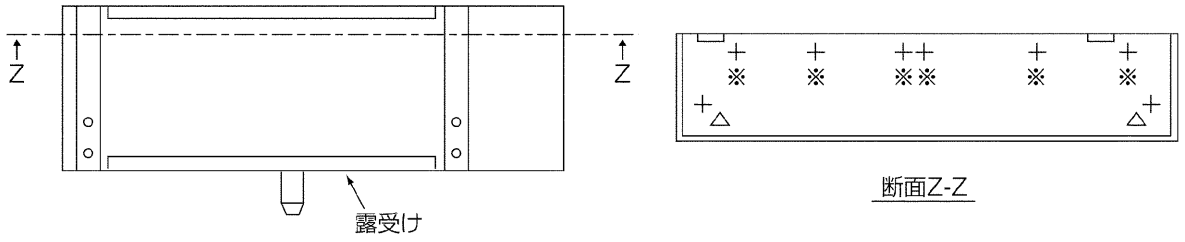


②次の手順で熱交換器と露受けを取外してください。ユニット背面から見た図を次ページに示します。

a. 左右のフィルターカバーを外して（蝶ボルト左右各4本）、フィルターを取外してください。
b. 熱交換器下部にある吸込空気温度センサーの取付用支持金をセンサーを付けたまま外してください。
c. ユニット下部の露受けとフランジを固定している止メネジ（M5×12本）を外して、フランジ全体をユニット本体から分離してください。また、露受けとレールを固定している止メネジ（M5×3本）を外して露受けから分離してください。
フィルター支持金を外してください。
d. 熱交換器に付属のLEVリード線・配管温度センサーのリード線を、コネクター接続部で外してください。
再取付時はLEV・センサーの番号を合わせて元通り接続してください。
e. 露受けと熱交換器を固定しているボルト（M8×左右各2本　次ページ※印）を外してください。
熱交換器と枠を固定している止メネジ（M5×左右各5本　次ページ△印）を外して、熱交換器を外してください。
(熱交換器のみの質量：P1120LM-E-L,R　66kg、P1400LM-E-L,R　69kg)
熱交換器を外すときには、フィン部を損傷しないように保護してください。また、熱交換器を吊る場合には熱交換器の左右側板上部の穴を利用してください。
f. ユニット本体と枠を固定している止メネジ（M5×左右各5本　次ページ□印）を外して枠を分離してください。



③熱交換器と枠を外した後の露受け部を上から見た図を下記に示します。
露受けと本体を固定しているボルト（M8×2本　△印）と止メネジ（M5×8本　※印）を外して、露受けを分離してください。



以上で分割完了です。搬入時に破損・キズが付かないように注意してください。
特に、熱交換器移動の際は、フィンおよび伝熱管の破損防止のため衝撃を与えないように注意してください。

④再組立は、分割時と逆の手順で実施してください。
外した止メネジ、ボルトは、締め忘れ、締付不足のないように実施ください。また、外したセンサーは、所定の位置に戻してください。

⑤試運転時の確認
・試運転後、異常振動、ビビリ音、水漏れの発生がないか確認ください。

2-2. 室内ユニットの設置

①ユニットを設置する場合には、コンクリートなどのしっかりした基礎の上に図2、3に示すようにユニットを載せてください。また、基礎は床面より100mm以上高くし、水平度を取ってください。(基礎がしっかりしていないと、振動発生の原因となります。)

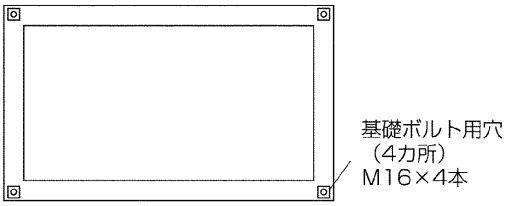


図1　PFAV-P1120·P1400LM-E-L,R 基礎図

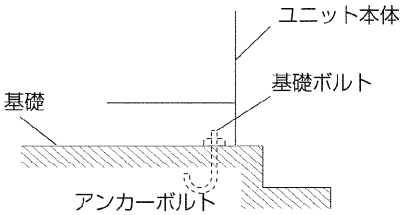


図2　アンカーボルト設置図

⚠警告

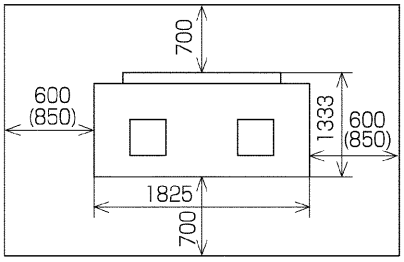
据付けは，質量に十分耐えるところに確実に行ってください。
強度が不足している場合は，ユニット落下によりケガの原因になります。

⚠注意

本体が必ず水平になるように据付けてください。

②保守・点検、エアフィルター抜出し、配管・配線作業が容易にできるように、また、後面吸込口の風路がふさがれないように図4に示したスペースを必ず確保してください。

(ユニット上面より見る)



注：(　) 寸法は送風機軸の引出しスペースです。

PFAV-P1120 · P1400LM-E-L,R

図3　サービススペース

冷媒配管工事については，室外ユニット添付の「据付工事説明書」を参照してください。

2-3．送風機ベルト・軸受について

`、送風機ベルトについて

①ファンプーリーと電動機プーリーの平行度は、図4・表1の内容を満足するようにセットしてください。

②ベルトの一本当りの張力はたわみ量Lの値を下式にて計算し、その時のたわみ荷重Wが表2の範囲内になるようにセットしてください。 L=0.016×C　C：プーリーの軸間距離(mm)

③ベルトがプーリーになじんだ後（運転後24～28時間以後）②項の適正張りに調整するようにしてください。また、新しいベルトの場合は、たわみ荷重Wの最大値の約1.3倍程度に調整するようにしてください。

④③項の初期伸び調整の後、2000時間ごとに張り再調整を行ってください。

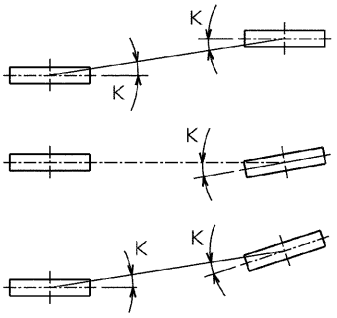
［ベルトは初期伸び（約1%）を含め、ベルト周長が2%のびた時点が寿命です。（運転時間で約8000時間）］

（表1）

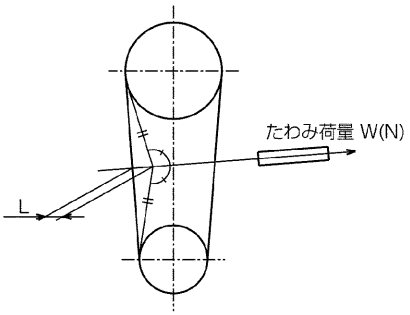
プーリー ＼ 平行度	K（分）	備　考
鋳鉄製プーリー	10以下	1m当り3mmのずれに相当

（表2）

Vベルトの種類		たわみ荷重 W（N）
モータープーリー径（mm）		
B形	160以下	27～34
	161～	29～37
C形	175～205	40～52
	206～255	48～62
	256～	56～72



(図4)プーリーの平行度

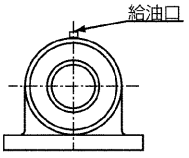


(図5)ベルトの張力

`、送風機軸受について

送風機軸受は、2000時間ごとにグリスの給油が必要です。グリスの給油は軸受に設けられた給油口（図6）よりグリスガンにて行ってください。

推奨グリス「昭和シェル　アルバニアNo.3」を使ってください。



(図6)軸受

3. ドレン配管（室内ユニット）

` ドレン配管は、ユニット後側（空気コイル側）下にあります。ドレン配管はできるだけトラップを付け、配管からの風漏れ防止とユニット内の水はけをよくしてください。（図7参照）図7のh寸法は、ユニット内の負圧＜機内抵抗＋吸込ダクト抵抗＞により決定してください。

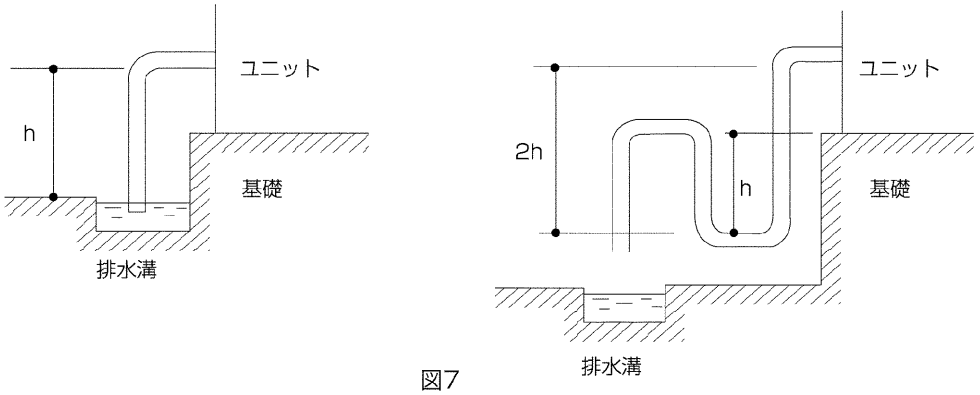


図7

` ドレン配管は室外側（排水側）が下り勾配（1/100以上）となるようにしてください。
` ドレン配管の横引きは20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。エア抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出る場合があります。
` 塩ビ管を使用する場合、必ず塩ビ系接着剤にて漏れのないように確実に接続してください。
` 集合配管は、本体ドレン出口より10cm位低い位置に集合配管がくるようにし、かつ集合配管は、VP40以上のもので下り勾配が1/100以上になるように施工してください。
` ドレン配管はイオウ系ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。
` ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
` ドレン排水テストをしてください。ドレンパンにやかん等で注水して排水が確実に行われることを確認してください。

⚠注意

ドレン配管は、確実に排水するように配管し、結露が生じないように保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財などを濡らす原因になります。

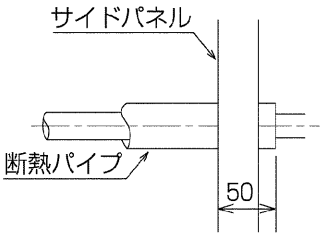
4. 冷媒配管・ドレン配管仕様

■ 冷媒配管・ドレン配管とも露タレを防止するため、十分な防露断熱工事を施工してください。
■ 市販の冷媒配管を使用の場合には、液管・ガス管ともに必ず市販の断熱材（耐熱温度100℃以上・厚さ、下表による）を巻いてください。室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン比重0.03・厚さ、下表による）を巻いてください。

①断熱材の厚さは、配管サイズにより選定してください。

配管サイズ	断熱材の厚さ
6.4㎜～25.4㎜	10㎜以上

②最上階又は高温多湿の条件下で使用する場合は、
上記の厚さ以上にする必要があります。
③客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。



サイドパネル貫通穴と断熱パイプ（現地手配）は隙間がないようコーキングしてください。
液管・ガス管の断熱パイプはサイドパネルの内側に50mm以上入れてください。
現地配管パイプカバーの中に配管の結露水が浸入しないように、コーキングなどの水切り処置をしてください。

4-1. 冷媒配管・ドレン配管サイズ

本室内ユニットには、室外ユニットからガス・液それぞれ5本ずつ(P1120形は4本ずつ)接続する冷媒回路方式となっています。
室外ユニット側の据付工事説明書を参考にして、5冷媒回路(P1120形は4冷媒回路）におけるガス・液管の誤接続がないように注意してください。

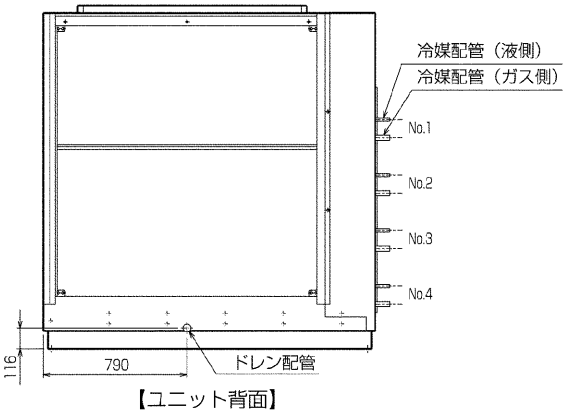
項目＼形名		P1120形	P1400形
冷媒配管	液管	φ9.52（ロウ付）×4	φ9.52（ロウ付）×5
	ガス管	φ22.2（ロウ付）×4	φ22.2（ロウ付）×5
ドレン配管		PT1 1/4 オネジ接続 φ42.7 鋼管	

※塩ビ管接続の場合、接続用ソケットは現地手配願います。
※本ユニットは冷媒にR410A使用のため、φ19.05以上の配管については0材では耐圧不足となります。必ず1／2H材またはH材を使用してください。

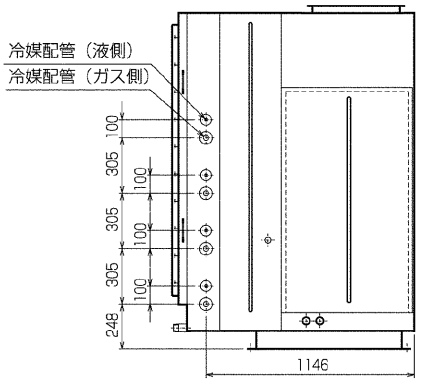
4-2. 冷媒配管・ドレン配管位置

（単位　㎜）

PFAV-P1120LM-E-Lの場合

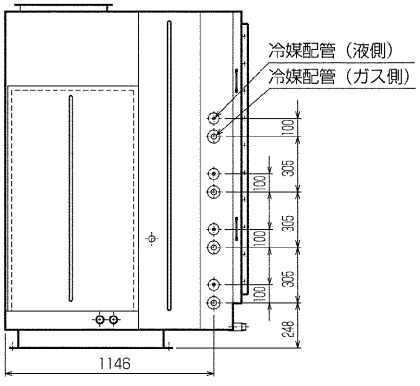


【ユニット背面】

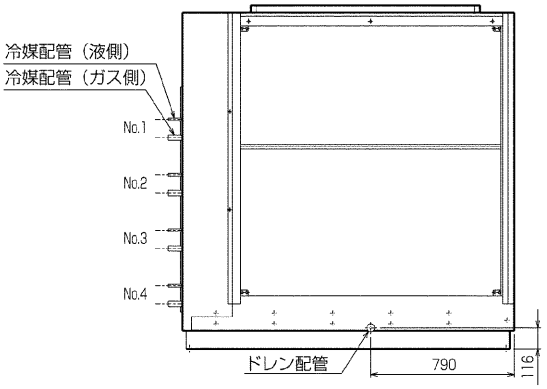


【ユニット左側面】

PFAV-P1120LM-E-Rの場合

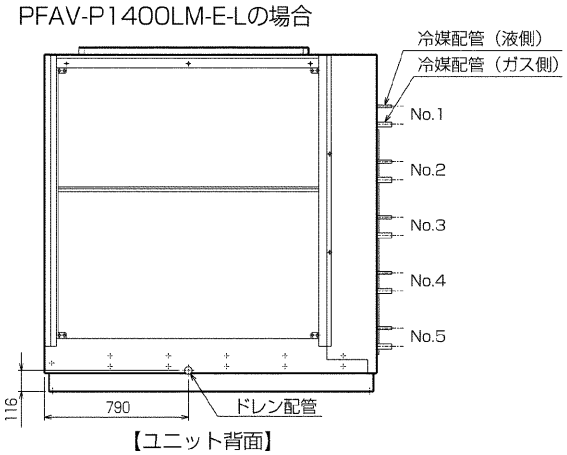


【ユニット右側面】

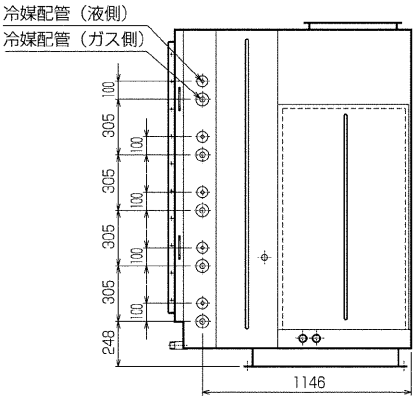


【ユニット背面】

PFAV-P1400LM-E-Lの場合

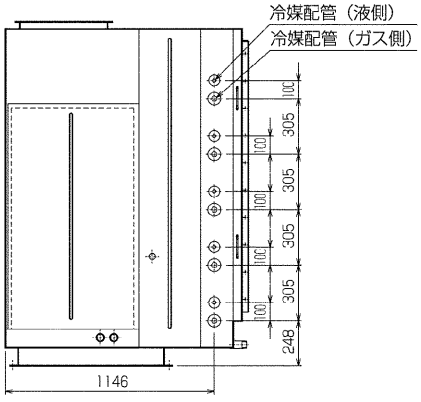


【ユニット背面】

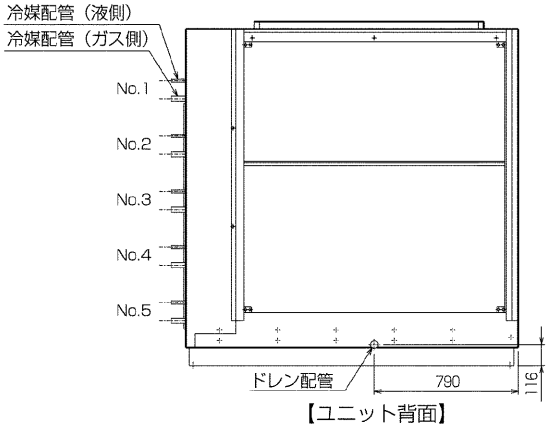


【ユニット左側面】

PFAV-P1400LM-E-Rの場合



【ユニット右側面】



【ユニット背面】

5. 電気配線

電気工事についてのご注意

1．電気工事は、「電気設備に関する技術基準を定める省令」「内線規程」および電力会社の規定に従ってください。
2．電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

⚠警告

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路に容量不足や施工不備があるとユニットが正常運転できなくなったり、最悪の場合、感電、発煙、発火等の原因になります。

3．電源は必ず専用の分岐回路からとり、漏電しゃ断器を取付けます。
4．ユニットの外部では、制御回路の電線（リモコン線・伝送線）と電源配線が直接接触しないように5cm以上離して施設してください。
5．配線の接続はネジの緩みのないように確実に行ってください。
6．天井裏内の配線（電源・リモコン・伝送線）はネズミ等により、かじられ切断する場合があり、できる限り鉄管等の保護管内に通してください。
7．MAリモコン用・伝送線用端子台には電源配線を接続しないでください。（故障します。）
8．室内ユニットとリモコンおよび室外ユニットを必ず配線接続してください。
9．D種接地工事を室外ユニットで行ってください。
10．制御配線は以下の条件からお選びください。

⚠注意

室外ユニット側で確実にアースを行ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線等に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電、発煙、発火およびノイズによる誤作動の原因になります。

制御配線の種類と許容長

制御配線には、「伝送線」と「リモコン線」があります。
システム構成により、配線の種類および許容長が異なります。配線工事の前に、必ず室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。

（1）伝送線（M-NET伝送線）

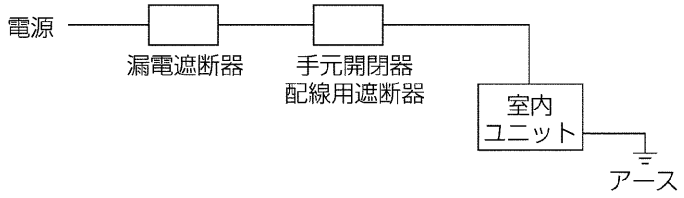
配線の種類	対象施設	全ての施設
	種　類	シールド線 CVVS・CPEVS
	線　数	2心ケーブル
	線　径	1.25mm²以上
室内外伝送線最遠長		最大200m
集中管理用伝送線および室内外伝送線最遠長 （室内ユニットを経由した最遠長）		最大500m ＊集中管理用伝送線に設置される伝送線用給電ユニットから各室外ユニットおよびシステムコントローラーまでの配線長は最大200m

（2）リモコン線

		MAリモコン（注1）	M-NETリモコン（注2）
配線の種類	種　類	VCTF,VCTFK,CVV CVS,VVR,VVF,VCT	シールド線　MVVS
	線　数	2心ケーブル	2心ケーブル
	線　径	0.3～1.25mm²（注3） （0.75～1.25mm²）（注4）	0.5～1.25mm²（注3） （0.75～1.25mm²）（注4）
総延長		最大200m	10mを超える部分は、 室内外伝送線最遠長の内数としてください

（注1）MAリモコンとは、MAリモコン、MAコンパクトリモコンおよびワイヤレスリモコンを示します。
（注2）M－NETリモコンとは、MEリモコンおよびM－NETコンパクトリモコンを示します。
（注3）作業上、0.75mm² までの線径を推奨します。
（注4）コンパクトリモコンの端子台に接続する場合は、（　）内の線径としてください。

5-1. 電源配線



形　名	電動機出力	電線太さ		漏電遮断器	手元開閉器		配線用遮断器
		電源配線	アース		開閉器容量	過電流保護器	
PFAV-P1120LM-E-L,R	5.5kW	5.5mm²	5.5mm²	75A(NV100-C(当社))※2	60A	50A(B種ヒューズ)	75A(NF100-C(当社))
	7.5kW※1	8mm²	5.5mm²	100A(NV100-C(当社))※3	100A	75A(B種ヒューズ)	100A(NF100-C(当社))
	11kW	14mm²	8mm²	125A(NV125-C(当社))※3	100A	100A(B種ヒューズ)	125A(NF225-C(当社))
PFAV-P1400LM-E-L,R	7.5kW	8mm²	5.5mm²	100A(NV100-C(当社))※3	100A	75A(B種ヒューズ)	100A(NF100-C(当社))
	11kW※1	14mm²	8mm²	125A(NV125-C(当社))※3	100A	100A(B種ヒューズ)	125A(NF225-C(当社))
	15kW	22mm²	8mm²	125A(NV125-C(当社))※3	100A	100A(B種ヒューズ)	125A(NF225-C(当社))

※1 標準仕様の電動機出力を示します。
※2 漏電遮断器は感度100mA　0.1s以下を使用してください。
※3 漏電遮断器は感度100～200mA　0.1s以下を使用してください。

注1.電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。
　2.漏電遮断器で地絡保護専用のものは、手元開閉器または配線用遮断器を組合わせて使用してください。
　3.電源配線にあたっては「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従ってください。

⚠注意

正しい容量のブレーカーやヒューズ以外は使用しないでください。大きな容量のヒューズや針金・銅線を使用すると故障や発煙、発火の原因になります。

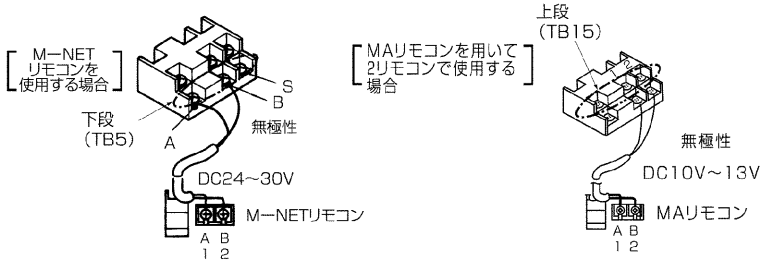
5-2. 電気配線接続（端子のネジのゆるみのないよう注意してください。）

⚠注意

現地側電気配線をクランプで確実に固定してください。

⚠注意

電源配線は、張力がかからないように配線工事をしてください。断線したり、発熱、火災の原因になります。



手順1.

本体下側のフロントパネルを外し、制御ボックスのカバーを外してください。

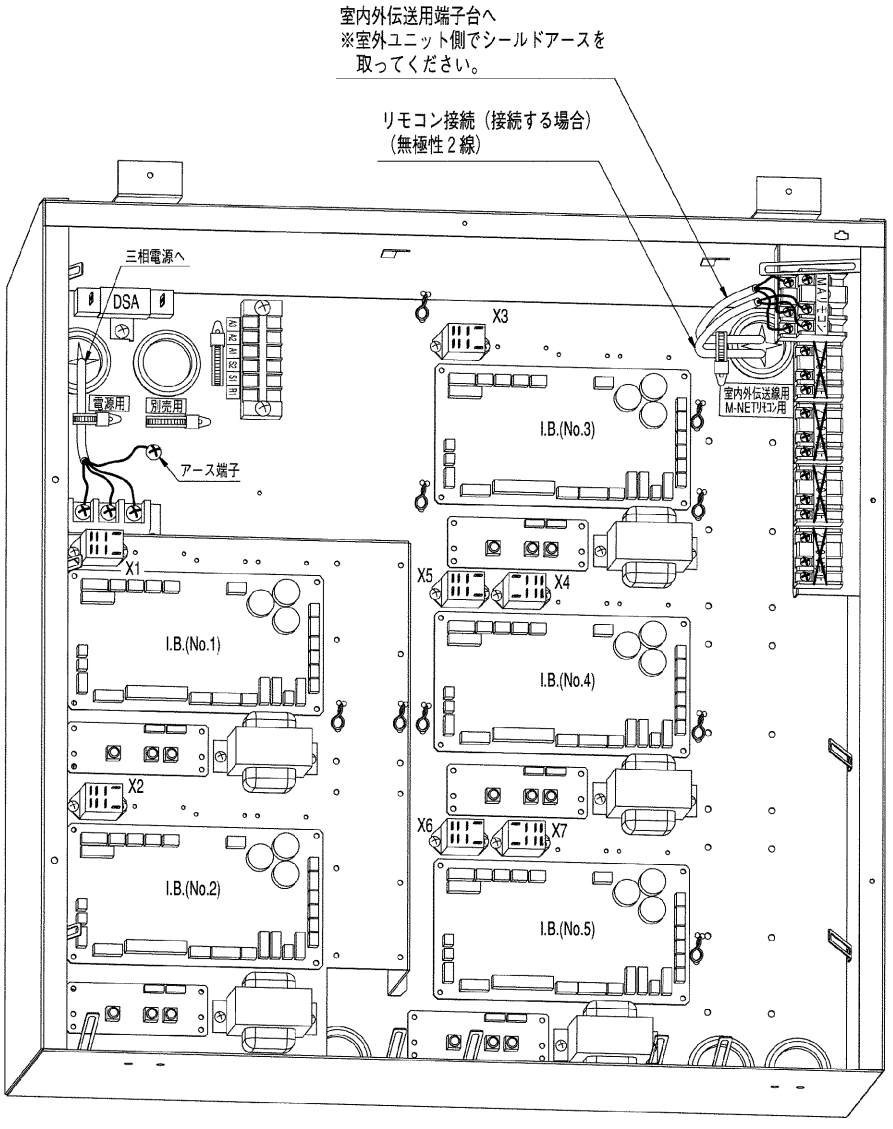
手順2.

下図のように、電源配線、室内外伝送線配線およびリモコン配線（2リモコンの場合）を行ってください。制御ボックスの取外しは不要です。

手順3.

配線が終わりましたら、ゆるみ・誤りのないことを再度ご確認の上、フロントパネルおよび制御ボックスカバーを取外しとは逆の手順で取付けてください。

※三相電源配線と伝送線配線（室内外伝送線、MAリモコン線、M-NETリモコン線）の経路は必ず分離させた配線経路にしてください。
ユニットの配線引込み位置は、1-2外形図をご参照ください。



※P1120形には、No.5の設定はありません。

5-3. リモコン・室内外伝送線の接続

＜a．室内外伝送線＞

室外ユニット（OC）の室内外伝送線用端子台（TB3）のA、B端子と室内ユニット（IC）の室内外伝送線用端子台（TB5）のA、B端子を渡り配線します。(無極性2線)

[シールド線の処理]

シールド線のアースは、OCのアースネジと、ICの端子台（TB5）のS端子とを渡り配線します。

＜b．MAリモコン配線＞※2リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。

[2リモコン運転の場合]

2リモコンとする場合は、ICの端子台（TB15）の1,2端子とMAリモコン（別売）の端子台を接続します。

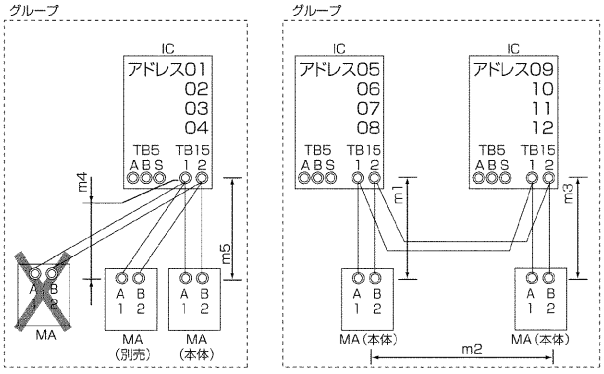
※接続したMAリモコン（別売）の主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。
（設定方法は、下記およびMAリモコンの据付工事説明書をご参照ください。）

[室内グループ運転の場合]

ICをグループ運転する場合は、両方のICの端子台（TB15）の1,2端子同士を接続します。(無極性2線)

※一方の室内ユニットのリモコンの主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。
（設定方法は、下記をご参照ください。）

※機能が異なる室内ユニットを同一グループ運転する場合は、同一グループ内の機能が最も多い室内ユニットを親機としてください。



P1120形の場合

＜許容長＞

MAリモコン配線

総延長（0.3～1.25mm²）

m1+m2+m3 ≦200m

m4+m5 ≦200m

＜禁止事項＞

①同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。

②同一グループの室内ユニットを同一アドレスに設定できません。

＜c．M－NETリモコン配線＞

室内ユニット（IC）の室内外伝送線用端子台（TB5）のA，B端子をそれぞれM－NETリモコン（RC）の端子台に接続します。(無極性2線)

[2リモコン運転の場合]

2リモコンとする場合は、ICの端子台（TB5）のA，B端子と2つのRCの端子台をそれぞれ接続します。

[室内グループ運転の場合]

ICをグループ運転する場合は、同一グループ内の親機の端子台（TB5）のA，B端子とRCの端子台を接続します。
(無極性2線)

※機能が異なる室内ユニットを同一グループ運転する場合は、同一グループ内の機能が最も多い室内ユニットを親機としてください。

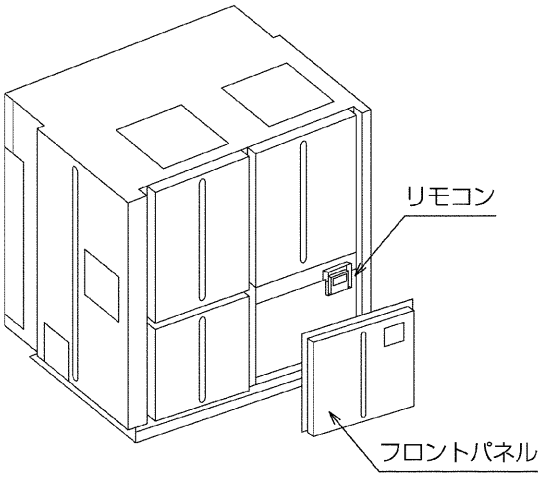
[システム接続]

制御配線は、システム構成により異なります。配線工事の前に必ず「5-6.システム接続例」(23～30ページ) をご覧ください。

MAリモコン用「主リモコン」「従リモコン」の設定方法 (M-NETリモコンによる「主従」設定方法は、「5-4.アドレス設定」をご参照ください。)

室内ユニット2台を1グループで運転する場合、または2リモコン運転を行う場合には、一方を「従リモコン」に設定する必要があります。※1グループに接続できるリモコンは最大2個までです。
(工場出荷時は「主リモコン」に設定されています。)
「従リモコン」の設定は、下記に従って設定してください。
MAリモコン(別売)の据付工事説明書もご参照願います。

(左配管仕様の場合)

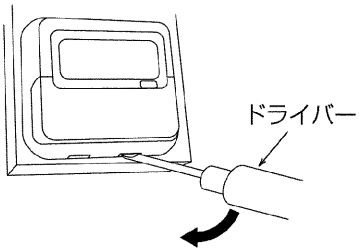


1.本体前面のフロントパネル(角穴付)を取外してください。

↓

2.リモコン本体のカバーを外してください。

マイナスドライバーを爪部にはめ込み、矢印方向に動かします。

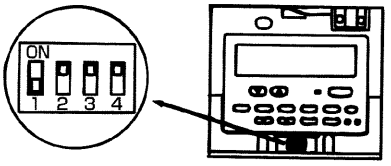


↓

3.リモコンのディップスイッチ1番をON→OFF(主→従)に変更してください。

↓

4.逆の手順でリモコン、フロントパネルを元通りに取付けてください。



切換スイッチ　　リモコン本体

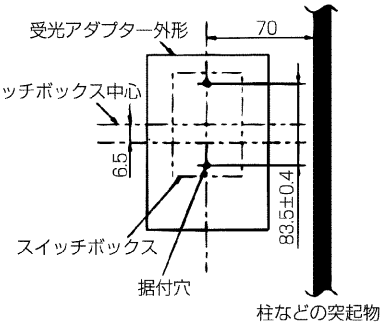
ワイヤレスリモコン(別売)をご使用になる場合 ※ワイヤレスリモコン(PAR-FL39M)、受光アダプター(PAR-FA31M)

受光アダプター(スイッチボックス)の据付位置は、下記事項を必ず守ってください。
(受光アダプター(別売)の据付説明書をご参照願います。)

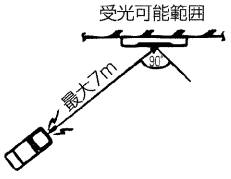
①壁、天井、スイッチボックスのいずれに据付ける場合でも、右図に示すスペースを確保してください。(間隔が十分でないと、取付けられない場合があります。)

②本機をスイッチボックスに取付けた場合、右図のように据付時の中心が下方に6.5mmずれますのでご注意ください。

③スイッチボックスに取付ける場合、下記の部品は現地で調達してください。
- ・1個用スイッチボックス　(JIS C8336)
- ・薄鋼電線管　(JIS C8305)
- ・ロックナット、ブッシング　(JIS C8330)



④壁面または天井面でのワイヤレスリモコンから受光が可能な位置に取付けてください。
(下図参照)



※受光アダプターはどの位置からでも見える場所に設置してください。
室内ユニット以外の受信可能な場所に設置してください。
※配線埋込みの場合、リモコン線を通すための穴加工が取付部に必要です。

お願い

蛍光灯(特にインバータータイプ)の近くに受光アダプターを設置すると、ワイヤレスリモコンからの信号を受信できない場合がありますので、受光アダプターの設置時、蛍光灯の買換え時には注意してください。

5-4．アドレス設定（必ず元電源を切った状態で操作してください。）

1. 本システムは、アドレス設定が必要です。
   またユニットによりアドレス設定範囲が異なります。
   ※グループ運転しない場合は、室内ユニットのアドレス設定は不要です。
2. グループ運転する場合は、下表に従ってアドレス設定してください。
   ※グループ運転とは、1つのリモコン（2リモコン含む）で、複数台の室内ユニットを運転する場合をいいます。

ユニット又はコントローラー		記号	アドレス設定範囲	設定方法	工場出荷時のアドレス設定	
					P1120	P1400
室内ユニット	親機・子機 ※1	IC	01～50 ※3	同一グループ内の親機にしたい室内ユニットを最も若い(小さい)アドレスにし、同一グループ内の室内ユニットのアドレスを連番に設定してください。 ※2，4	01 04 02 03	01 04 02 05 03
MAリモコン		MA	アドレス設定不要です。(但し、2リモコン運転する場合は主従切換スイッチ設定が必要です。)		主	
室外ユニット		OC	51～100 ※3	同一冷媒系統の室内ユニットアドレス+50に設定してください。	00	
M-NET リモコン	主リモコン	RC	101～150	同一グループ内の最も若い(小さい)室内ユニット親機アドレス+100に設定してください。	101	
	従リモコン	RC	151～200	同一グループ内の最も若い(小さい)室内ユニット親機アドレス+150に設定してください。		
システム コントローラー	集中コントローラー	TR, SC	0	左記アドレス範囲で任意	000	
	システムリモコン	SR, SC	201～250	左記アドレス範囲で任意	201	
	スケジュール タイマー (M-NET対応)	ST, SC	201～250	左記アドレス範囲で任意	202	
	ON/OFFリモコン	AN, SC	201～250	管理したい最小グループNo.+“200”に設定してください。	201	
	グループリモコン	GR, SC	201～250	管理したい最小グループNo.+“200”に設定してください。		
	LMアダプター	SC	201～250	左記アドレス範囲で任意	247	

※1.同一グループ内の機能が最も多い室内ユニットを親機としてください。
※2.アドレスを設定しないでグループ運転した場合、全室内ユニットファンが同時運転します。また、全室外ユニットの圧縮機も同時運転しますので、グループ運転する場合は必ずアドレス設定してください。
アドレス設定をしないでグループ運転した場合、同時運転のため始動電流が大きくなり、主ブレーカーの作動や電源電圧の降下の原因となります。
※3.他の冷媒系統の室内ユニットのアドレスと重複する場合は、設定範囲内で別の空きアドレスを設定してください。
※4.室内ユニットには、4枚もしくは5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。
No.2基板のアドレスは、必ず「No.1基板アドレス＋1」に、
No.3基板のアドレスは、必ず「No.1基板アドレス＋2」に、
No.4基板のアドレスは、必ず「No.1基板アドレス＋3」に、
No.5基板のアドレスは、必ず「No.1基板アドレス＋4」に、
設定してください。

3. アドレス（SW12、11）の設定は、下記例のように10の位（SW12）と1の位（SW11）の組合せになります。
（例）アドレス“03”は、10の位（SW12）：“0”、1の位（SW11）：“3”
アドレス“25”は、10の位（SW12）：“2”、1の位（SW11）：“5”

4. アドレス設定した場合は、製品名板にアドレスNo.記入欄がありますので油性マジック等で必ず記入してください。

5-5．本体内蔵センサー以外で室温を検知する場合

、別売ルームサーモをご使用の場合……**SW3-8をONにセットしてください。**
、リモコン内蔵センサーをご使用の場合……**SW1-1とSW3-8をそれぞれONにセットしてください。**
＊リモコンの機種により、リモートセンサーが内蔵されていない場合は、本体内蔵センサーにて室温検知するようにしてください。

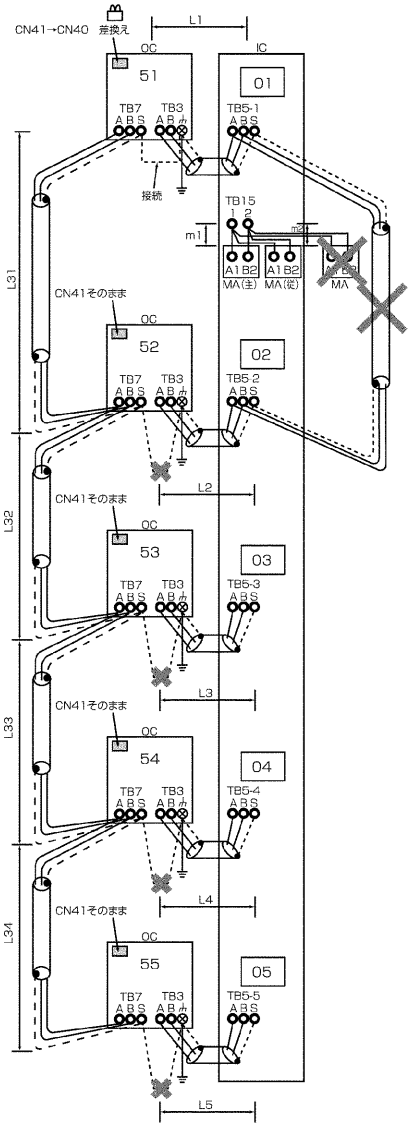
5-6.システム接続例

(1)MAリモコンを用いたシステム

①単一冷媒システムの場合

制 御 線 配 線 例

※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。



注意事項

1. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。
3. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えは、システム内で1台としてください。
4. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。

許容長

<a．室内外伝送線>
最遠長（1.25mm²以上）
L1,L2,L3,L4,L5 ≦200m

<b．集中管理用伝送線>
室外ユニットを経由した最遠長（1.25mm²以上）

L1＋L31＋L2	≦500m
L1＋L31＋L32＋L3	≦500m
L1＋L31＋L32＋L33＋L4	≦500m
L1＋L31＋L32＋L33＋L34＋L5	≦500m

<c．MAリモコン配線>
総延長（0.3~1.25mm²）
m1＋m2 ≦200m

配線方法・アドレス設定方法

<a．室内外伝送線>
室外ユニット（OC）の室内外伝送線用端子台（TB3）のA、B端子と室内ユニット（IC）の室内外伝送線用端子台（TB5）のA、B端子を渡り配線します。（無極性2線）
※必ずシールド線をご使用下さい。
[シールド線の処理]
シールド線のアースは、OCのアースネジと、ICの端子台（TB5）のS端子とを配線します。

<b．集中管理用伝送線>
各OCの集中管理用伝送線端子台（TB7）のA，B端子を渡り配線します。1台のOCのみ、制御基板上の給電切換コネクター（CN41）を（CN40）に差換えます。
※必ずシールド線をご使用ください。
[シールド線の処理]
シールド線のアースは、各OCの端子台（TB7）のS端子を渡り配線します。（CN40）に差換えた1台のOCの端子台（TB7）のS端子を電気品箱のアースネジ（⏚）に接続します。

<c．MAリモコン配線> ※2リモコンまたはグループ運転しない場合は不要です。
[2リモコン運転の場合]
2リモコンとする場合は、ICの端子台（TB15）の1,2端子とMAリモコン（別売）の端子台を接続します。（無極性2線）
※接続したMAリモコン（別売）の主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。
（設定方法は、「5−3.リモコン・室内外伝送線の接続ーMAリモコン用「主リモコン」「従リモコン」の設定方法」およびMAリモコンの据付工事説明書をご参照ください。）
MAリモコンは室内ユニットに内蔵されています。

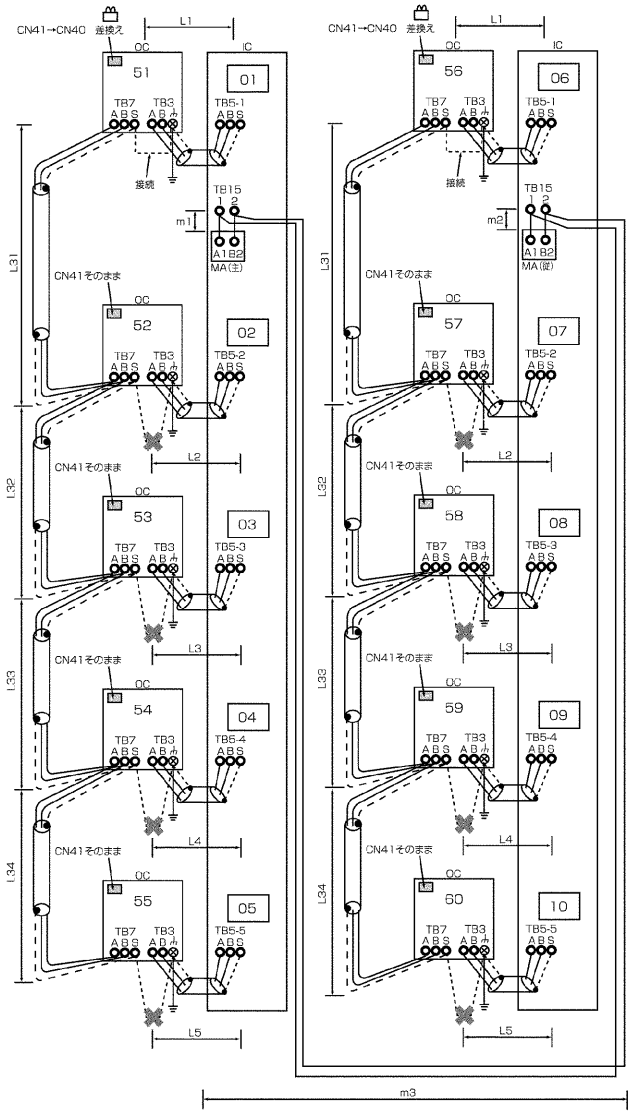
<d．スイッチ設定>
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム

②異冷媒グルーピング運転の場合

制 御 線 配 線 例

※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。



注意事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合でも、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。室内ユニット内にあるMAリモコン配線用中継コネクターを外すことにより、MAリモコンの取外しと同じ状態にできます。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
3. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えは、システム内で1台としてください。
4. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。

許容長

＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
＜b．集中管理伝送線＞
(1)①と同様
＜c．MAリモコン配線＞
総延長（0.3～1.25mm²）
m1+m2+m3 ≦200m

配線方法・アドレス設定方法

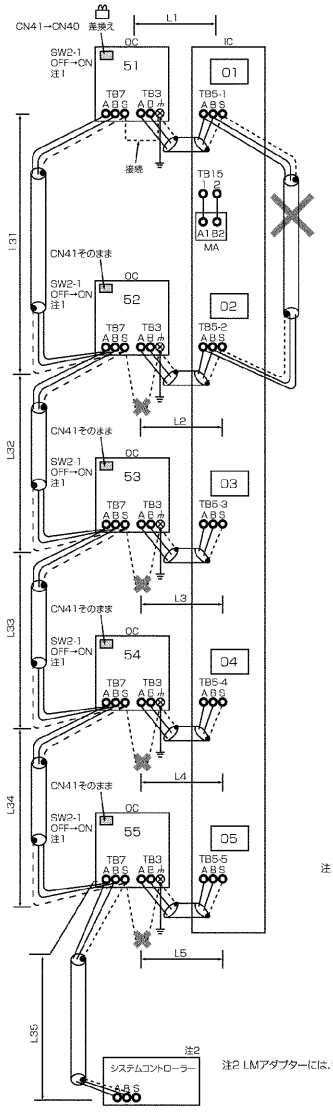
＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)①と同様
＜c．MAリモコン配線＞
[2リモコン運転の場合]
(1)①と同様
[室内グループ運転の場合]
ICをグループ運転する場合は、両方のICの端子台(TB15)の1,2端子同士を接続します。（無極性2線）
※一方の室内ユニットのリモコンの主従切換スイッチを従リモコンに設定してください。
同一グループ内の機能が最も多い室内ユニットを親機としてください。
＜d．スイッチ設定＞
「5-4.アドレス設定」をご参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム

③集中管理用伝送線にシステムコントローラーを接続した場合（1グループ室内ユニット1台管理した場合）

制 御 線 配 線 例

※室外ユニットから集中管理へ給電する場合
※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。



注1 LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は"OFF"のままとしてください。

注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。

注意事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
3. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えは、システム内で1台としてください。
4. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。

許容長

<a．室内外伝送線>
(1)①と同様
<b．集中管理用伝送線>
室外ユニットを経由した最遠長（1.25mm²以上）

L35+L34+L33+L32+L31+L1	≦500m
L35+L34+L33+L32+L2	≦500m
L35+L34+L33+L3	≦500m
L35+L34+L4	≦500m
L35+L5	≦500m
L1+L31+L32+L33+L34+L5	≦500m

<c．MAリモコン配線>
(1)①と同様

配線方法・アドレス設定方法

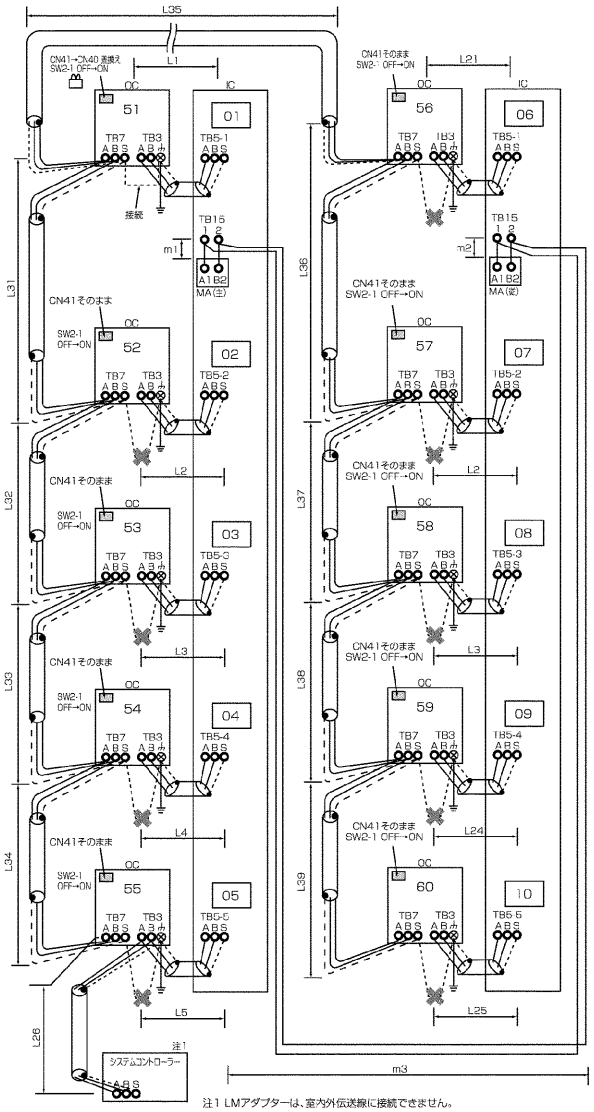
<a．室内外伝送線>
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
<b．集中管理用伝送線>
各OCの集中管理用伝送線端子台（TB7）のA、B端子、およびシステムコントローラーのA、B端子を渡り配線します。（無極性2線）
1台のOCのみ、制御基板上の給電コネクター（CN41）を（CN40）に差し換えます。
※必ずシールド線をご使用ください。
[シールド線の処理]
シールド線のアースは、各OCの端子台（TB7）のS端子、およびシステムコントローラーのS端子を渡り配線します。
（CN40）に差し換えた1台のOCの端子台（TB7）のS端子を電気品箱のアーススジ（⏚）に接続します。
<c．MAリモコン配線>
(1)①と同様
<d．スイッチ設定>
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

(1)MAリモコンを用いたシステム

④室内外伝送線にシステムコントローラーを接続した場合（LMアダプターを除く）

制 御 線 配 線 例

※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。



注1 LMアダプターは、室内外伝送線に接続できません。

注意事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合でも、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。室内ユニット内にあるMAリモコン配線用中継コネクターを外すことにより、MAリモコンの取外しと同じ状態にできます。
2. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
3. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えは、システム内で1台としてください。
4. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。
5. 室内外伝送線に接続できるシステムコントローラーは最大3台です。
   ただし、G-50は1台までです。

許容長

＜a．室内外伝送線＞

最遠長（1.25mm²以上）

L1，L2，L3，L4，L5	≦200m
L21，L22，L23，L24，L25	≦200m
L26	≦200m

＜b．集中管理用伝送線＞

室外ユニットを経由した最遠長（1.25mm²以上）

L26+L34+L33+L32+L31+L1	≦500m
L1+L31+L32+L33+L34+L5	≦500m
L26+L34+L33+L32+L31+L35+L36+L37+L38+L39+L25	≦500m
L5+L34+L33+L32+L31+L35+L36+L37+L38+L39+L25	≦500m

＜c．MAリモコン配線＞

(1)②と同様

配線方法・アドレス設定方法

＜a．室内外伝送線＞

室外ユニット（OC）の室内外伝送線用端子台（TB3）のA、B端子と室内ユニット（IC）の室内外伝送線用端子台（TB5）のA、B端子、およびシステムコントローラーのA，B端子を渡り配線します。（無極性2線）

※必ず、シールド線をご使用ください。

[シールド線の処理]

シールド線のアースは、OCのアースネジと、ICの端子台（TB5）のS端子、およびシステムコントローラーのS端子とを渡り配線します。

＜b．集中管理用伝送線＞

各OCの集中管理用伝送線端子台（TB7）のA，B端子を渡り配線します。1台のOCのみ、制御基板上の給電切換コネクター（CN41）を（CN40）に差換えます。全OCの制御基板上の集中管理スイッチ（SW2−1）を“ON”に設定します。

※必ずシールド線をご使用ください。

[シールド線の処理]

(1)①と同様

＜c．MAリモコン配線＞

[2リモコン運転の場合]

(1)①と同様

[室内グループ運転の場合]

(1)②と同様

＜d．スイッチ設定＞

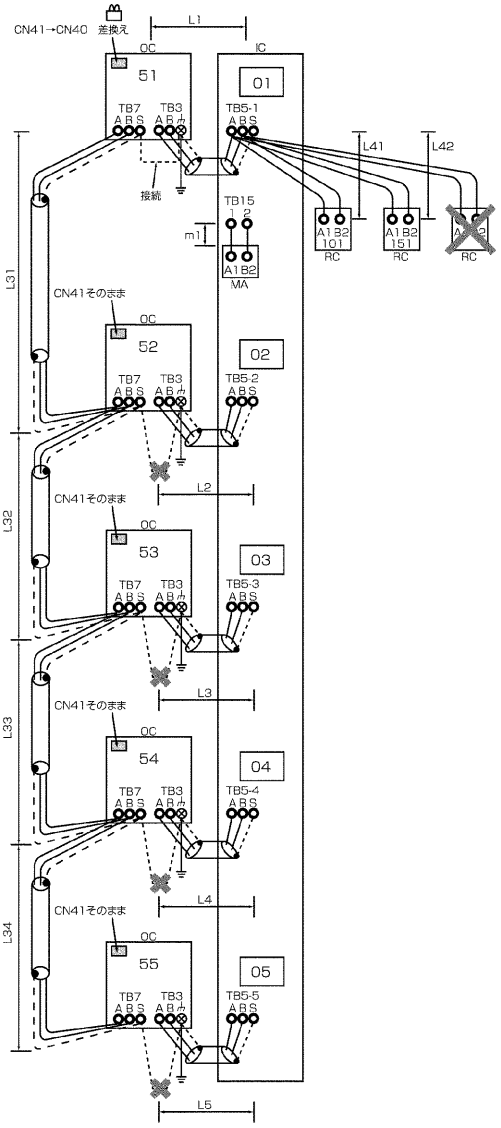
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

(2)MAリモコンとM−NETリモコンを混在したシステム

①単一冷媒システムの場合

制 御 線 配 線 例

※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントロ−ラ−（制御基板）があります。



注意事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM−ＮＥＴリモコンは接続できません。
2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。
3. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
4. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えはシステム内で1台としてください。
5. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。
6. 室内ユニットをグループ運転する場合は、室内ユニットのMAリモコン端子台（TB15）同士を渡り配線してください。

許容長

＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)①と同様
＜c．MAリモコン配線＞
(1)①と同様
＜d．M−ＮＥＴリモコン配線＞
総延長（0.5～1.25mm²）
L41+L42 ≦10m

注. 但し、10mを超える場合は、
＜a. 室内外伝送線＞の内数としてください。

配線方法・アドレス設定方法

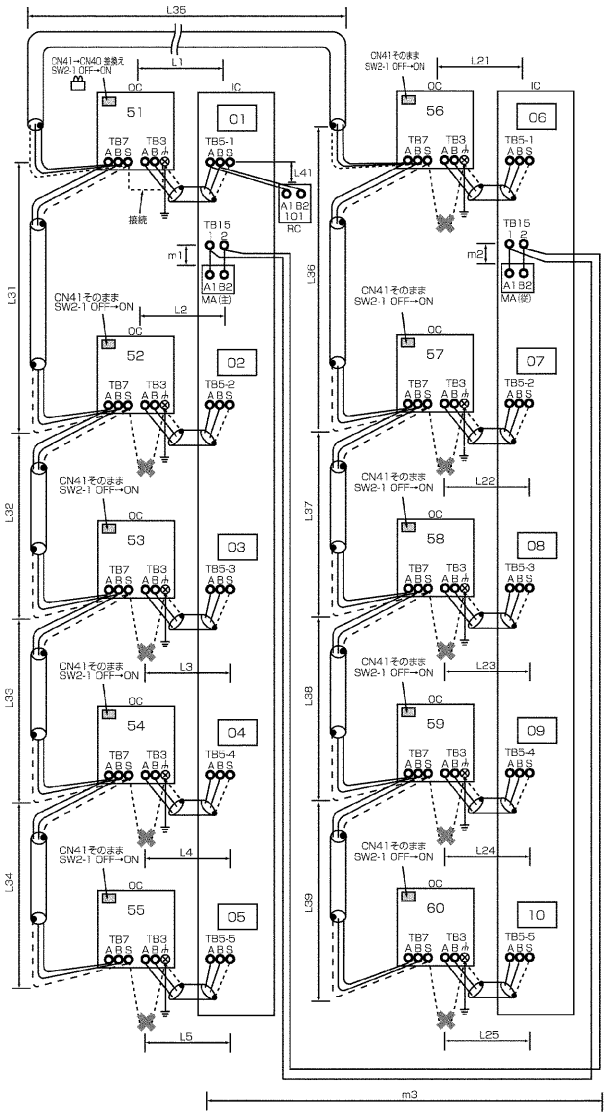
＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
＜c．MAリモコン配線＞
(1)①と同様
＜d．M−ＮＥＴリモコン配線＞
室内ユニット（ＩＣ）の室内外伝送線用端子台（ＴＢ5）のＡ，Ｂ端子をそれぞれM−ＮＥＴリモコン（ＲＣ）の端子台に接続します（無極性2線）。
[2リモコン運転の場合]
2リモコンとする場合は、ＩＣの端子台（ＴＢ5）のＡ，Ｂ端子と2つのＲＣの端子台をそれぞれ接続します。
＜e．スイッチ設定＞
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

(2)MAリモコンとM−NETリモコンを混在したシステム

②異冷媒グルーピング運転の場合

制 御 線 配 線 例

※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。



注意事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。
2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合でも、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。室内ユニット内にあるMAリモコン配線用中継コネクターを外すことにより、MAリモコンの取外しと同じ状態にできます。
3. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
4. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えはシステム内で1台としてください。
5. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。
6. 室内ユニットをグループ運転する場合は、室内ユニットのMAリモコン端子台（TB15）同士を渡り配線してください。

許容長

＜a．室内外伝送線＞
(1)④と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)④と同様
＜c．MAリモコン配線＞
(1)②と同様
＜d．M−NETリモコン配線＞
(2)①と同様

配線方法・アドレス設定方法

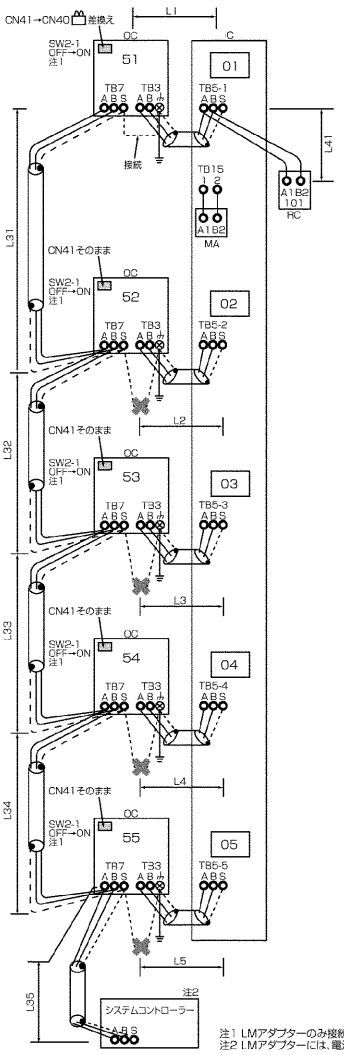
＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
＜c．MAリモコン配線＞
(1)②と同様
＜d．M−NETリモコン配線＞
(2)①と同様
[2リモコン運転の場合]
(2)①と同様
[室内グループ運転の場合]
ICをグループ運転する場合は、同一グループとするICの親機ICの端子台（TB5)のA,B端子とRCの端子台を接続します（無極性2線）。
※M-NETリモコンは、室内外伝送線上のどの端子台にでも接続可能です。
※機能が異なる室内ユニットを同一グループ運転する場合は、同一グループ内の機能が最も多い室内ユニットを親機としてください。
※異冷媒にまたがる室内グループのM-NETリモコンは、室内ユニットの親機と同じ系統の室内外伝送線に接続してください。
＜e．スイッチ設定＞
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

(2)MAリモコンとM−NETリモコンを混在したシステム

③集中管理用伝送線にシステムコントローラーを接続した場合

制 御 線 配 線 例

※P1120形室内ユニット内には4枚、P1400形室内ユニット内には5枚の室内コントローラー（制御基板）があります。



注1 LMアダプターのみ接続する場合は、SW2-1は"OFF"のままとしてください。
注2 LMアダプターには、電源単相AC200Vが必要です。

注意事項

1. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。
2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合でも、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。室内ユニット内にあるMAリモコン配線用中継コネクターを外すことにより、MAリモコンの取外しと同じ状態にできます。
3. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニットの端子台（TB5）同士を接続しないでください。
4. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えはシステム内で1台としてください。
5. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。
6. 室内ユニットをグループ運転する場合は、室内ユニットのMAリモコン端子台（TB15）同士を渡り配線してください。

許容長

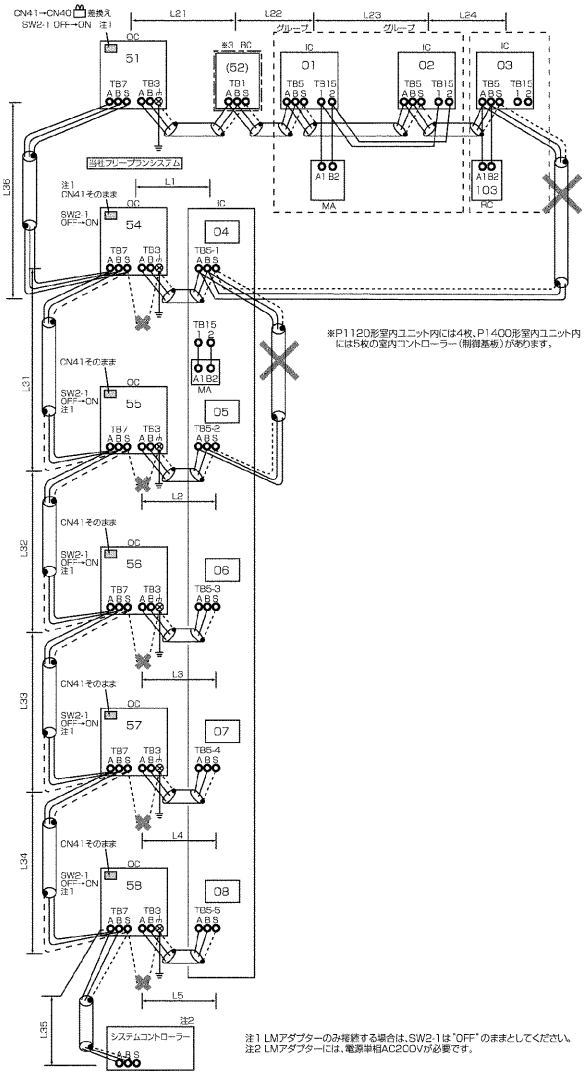
＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)③と同様
＜c．MAリモコン配線＞
(1)①と同様
＜d．M−NETリモコン配線＞
(2)①と同様

配線方法・アドレス設定方法

＜a．室内外伝送線＞
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
＜b．集中管理用伝送線＞
(1)③と同様
[シールド線の処理]
(1)③と同様
＜c．MAリモコン配線＞
(1)①と同様
＜d．M−NETリモコン配線＞
(2)①と同様
[2リモコン運転の場合]
(2)①と同様
＜e．スイッチ設定＞
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

(3)当社フリープランと組合わせたシステム例

制 御 線 配 線 例



注意事項

1. 必ずシステムコントローラーを接続してください。
2. 同一グループの室内ユニットに3台以上のM-NETリモコンは接続できません。
3. 同一グループの室内ユニットに3台以上のMAリモコンは接続できません。室内ユニットが3台以上になる場合でも、MAリモコンが2台以下となるようにしてください。室内ユニット内にあるMAリモコン配線用中継コネクターを外すことにより、MAリモコンの取外しと同じ状態にできます。
4. 異なる室外ユニットに接続された室内ユニット端子台 （TB5）同士を接続しないでください。
5. 給電コネクター（CN41）の（CN40）への差換えはシステム内で1台としてください。
6. 給電コネクターを差換えた室外ユニットで集中管理用伝送端子台（TB7）のシールドアース（S端子）をユニットのアース端子に接続してください。
7. 室内ユニットをグループ運転する場合は、室内ユニットのMAリモコン端子台（TB15）同士を渡り配線してください。

許容長

<a．室内外伝送線>
最遠長（1.25mm²以上）
L1，L2，L3，L4，L5 ≦200m
L21＋L22＋L23＋L24 ≦200m

<b．集中管理用伝送線>
室外ユニットを経由した最遠長（1.25mm²以上）

L35＋L34＋L33＋L32＋L31＋L1	≦500m
L35＋L34＋L33＋L32＋L2	≦500m
L35＋L34＋L33＋L3	≦500m
L35＋L34＋L4	≦500m
L35＋L5	≦500m
L35＋L34＋L33＋L32＋L31＋L36＋L21＋L22＋L23＋L24	≦500m
L5＋L34＋L33＋L32＋L31＋L36＋L21＋L22＋L23＋L24	≦500m

<c．MAリモコン配線>
(1)①と同様
<d．M-NETリモコン配線>
(2)①と同様

配線方法・アドレス設定方法

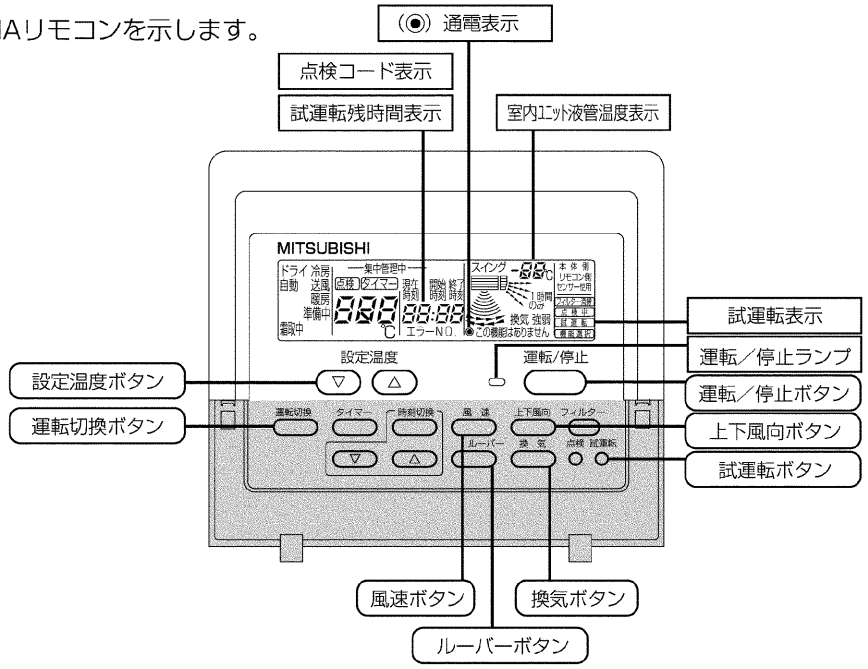
<a．室内外伝送線>
(1)①と同様
[シールド線の処理]
(1)①と同様
<b．集中管理用伝送線>
(1)③と同様
[シールド線の処理]
(1)③と同様
<c．MAリモコン配線>
(1)②と同様
<d．M-NETリモコン配線>
(2)②と同様
<e．スイッチ設定>
「5−4.アドレス設定」をご参照ください。

6. 試運転方法 〔取扱説明書もご一読ください〕

6-1. 試運転方法

、室内・室外ユニット据付、配管、配線作業終了後、冷媒漏れ、電源、伝送線のゆるみ、極性間違いがないか今一度確認してください。
、電源端子台と大地間をDC500Vメガーで計って1.0MΩ以上であることを確認します。1.0MΩ未満の場合は運転しないでください。
※MAリモコン用・伝送線用端子台の絶縁抵抗測定は絶対にしないでください。

※イラストは、MAリモコンを示します。



操　作　手　順
試運転する12時間以上前に、元電源を入れる　➡　最大5分間“HO”を表示
三相電源の相順を確認する。 （逆相の場合、送風機が逆回転し異常の原因となります。）
試運転 ボタンを２度押す　➡　試運転 の液晶表示　※全冷媒回路が試運転します。 （1冷媒回路毎に試運転をされる場合は、試運転させない室内基板のアドレス基板上のスライドSWAを「3」に設定してください。）
運転切換 ボタンを押す　➡　風が吹出すことを確認
運転切換 ボタンを押して冷房（または暖房）運転に切換える ➡　冷風（または温風）が吹出すことを確認
室外ユニットファンの運転を確認する
運転/停止 ボタンを押して試運転を解除する　➡　停止 ※1冷媒回路毎に試運転させた場合は、各アドレス基板のスライドSWAを「1」に戻してください。 **※スライドSWAを「1」に戻さずに運転された場合、室外ユニットが運転しません。**
確認後は、必ず元電源を切ってください

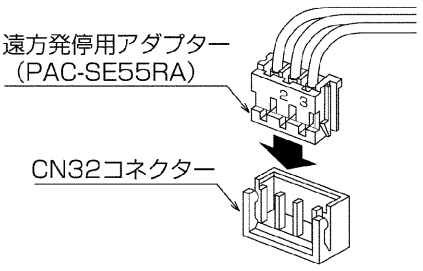
※リモコンに点検コードが表示された場合、または正常に作動しない場合は、室外ユニット側の据付工事説明書、または技術資料をご参照願います。
※試運転では２時間の切タイマーが作動し、２時間後に自動的に停止します。
※試運転中、試運転残時間を時刻表示部に表示します。また、室内ユニットの液管温度をリモコンの室温表示部に表示します。
※風向ボタンを押した時、機種により“この機能はありません”の表示がリモコンに表示されますが故障ではありません。
※外部入力接続されている場合、外部入力信号で運転操作を行って、試運転確認を実施してください。

6-2．外部入力による発停（レベル入力）

1.発停のみを外部入力で操作する場合

（1）室内ユニットへの信号入力接続

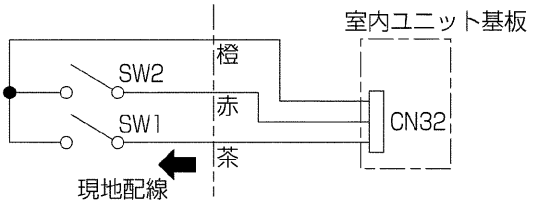
①室内ユニット基板上のコネクターCN32に接続します。
②遠方発停用アダプターのコネクターを差込みます。
　コネクターには方向性があり、逆差込みはできませんので注意してください。
③信号入力は、グループ内の親機に接続してください。
　(室内ユニット内のNo.1基板へ接続してください。)



（2）現地配線方法

遠方発停用アダプターを使用すると現地側の回路によりいろいろな運転操作ができます。
　（例）外部タイマー運転
　　遠方操作運転

①基本的な接続方法(SWCがOFFであることを確認してください。)
　SW1・・・・切換スイッチ
　　運転／停止を外部回路で行うかリモコン（※）で行うかを選択します。
　　（※）システムコントローラー
　　（集中コントローラー）も含みます。
　SW2・・・・運転スイッチ
　　室内ユニットの運転／停止を行います。



②各スイッチの内容（詳細は右表を参照ください）
　SW1：ONの場合
　●リモコンから運転／停止はできません。
　　他の操作（温度設定、風速切換等）はできます。
　●SW2で運転／停止ができます。
　SW1：OFFの場合
　●リモコンから運転操作（運転／停止／他の操作）ができます。
　●SW2で運転／停止はできません。

		SW1	
		ON	OFF
リモコン		運転／停止はできません	運転操作ができます
SW2	ON	運転	運転／停止はできません
	OFF	停止	

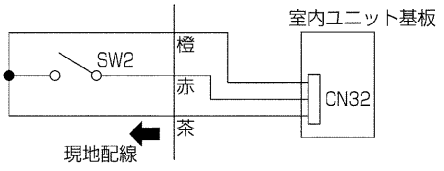
※SWCがOFFに設定されている場合のみ使用可能です。

⚠注意

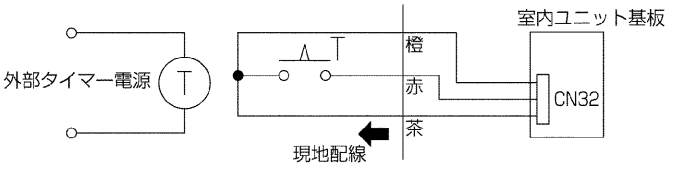
※微小電流用接点の部品を選定してください。
　タイマーおよびスイッチの接点にはDC5Vまたは12V、1mA程度の負荷しかかかりませんので、動作しなくなることがあります。
※グループ運転で発停入力をご使用の場合は、手元リモコンが必要です。

（3）使用例

いずれの場合も運転指令が出てからユニットが運転するまで、5～6秒の時間が掛かります。
①遠方操作または外部タイマーのみで運転／停止を行い、リモコンからの運転／停止を禁止したい場合。

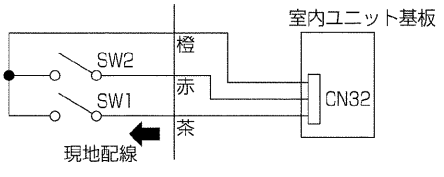


遠方操作の場合

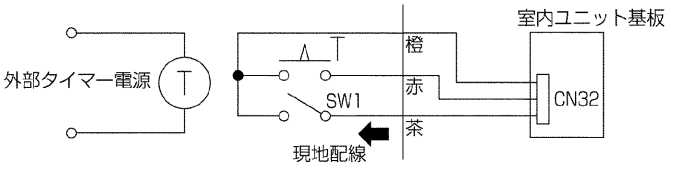


外部タイマー運転の場合

②遠方操作または外部タイマーによる運転／停止と、リモコンからの運転／停止を使い分ける場合。

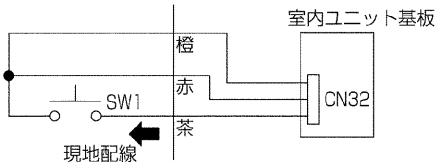


遠方操作の場合



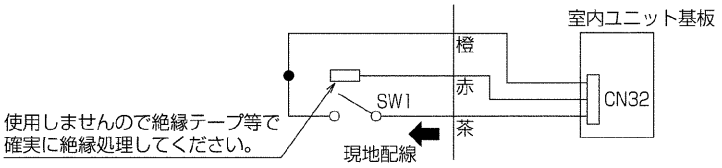
外部タイマー運転の場合

③遠方操作により運転を開始させ、以後はリモコンでの操作を自由に行いたい場合。



SW1はモーメンタリースイッチ（手動操作自動復帰スイッチ）をご使用ください。
SW1を押す（1秒以上）と運転を開始します。その後はリモコンによる操作が行えます。

④リモコンでの運転の許可／禁止を外部回路で行う場合。

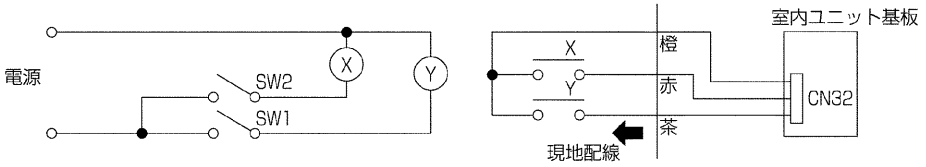


	SW1	
	ON	OFF
リモコン	運転／停止はできません。	運転操作ができます。

（4）配線上の制限

室内ユニット基板からの配線の長さは10m以内にしてください。
正常に作動しなくなることがあります。

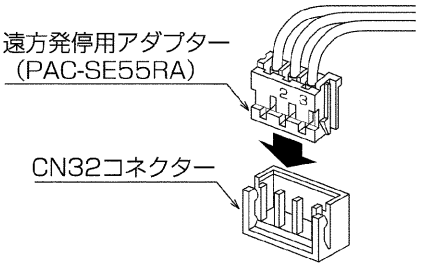
遠方配線等で配線を延長する場合は中継用リレーをご使用ください。



2.運転モード(発停を含む)を外部入力で操作する場合

（1）室内ユニット側への信号入力接続

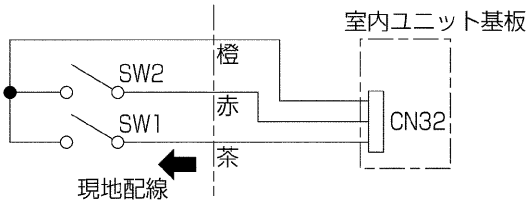
①室内ユニット基板上のコネクターCN32に接続します。
②遠方発停用アダプターのコネクターを差込みます。
　コネクターには方向性があり逆差込みはできませんので注意してください。
③信号入力は、グループ内の親機に接続してください。
　(室内ユニット内のNo.1基板へ接続してください。)



（2）現地配線方法

外部からのレベル入力により、冷房運転/暖房運転の切換えができます。

①基本的な接続方法(SWCがONであることを確認ください。)
　SW1・・・・冷房運転スイッチ
　SW2・・・・暖房運転スイッチ



②各スイッチ内容（詳細は下表を参照ください）

		SW1	
		ON	OFF
SW2	ON	−	暖房運転
	OFF	冷房運転	停止

※SWCがONに設定されている場合のみ使用可能です。

⚠注意

※微小電流用接点の部品を選定してください。
　タイマーおよびスイッチの接点にはDC5Vまたは12V、1mA程度の負荷しかかかりませんので、動作しなくなることがあります。
※グループ運転で発停入力をご使用の場合は、手元リモコンが必要です。
※システムコントローラーとの併用はできません。

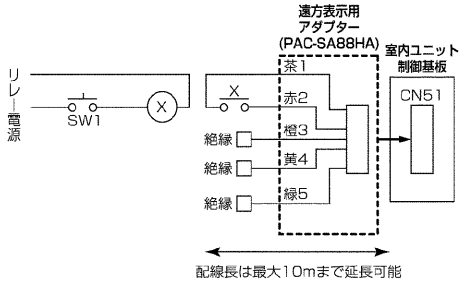
6-3．外部入力による発停（パルス入力）

（1）室内ユニットへの信号入力接続

①室内ユニット基板上のコネクターCN51に接続します。
②遠方表示用アダプターのコネクターを差込みます。
　コネクターには方向性があり、逆差込みはできませんので注意してください。
③信号入力は、グループ内の親機に接続してください。
　(室内ユニット内のNo.1基板へ接続してください。)

（2）現地配線方法

外部からのパルス（a接点）により、運転／停止を反転させることができます。

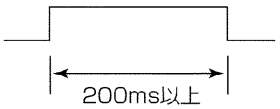


SW1	遠方発停スイッチ（モーメンタリースイッチ） ※SWを押す（パルス入力する）毎にON／OFFを反転します。
X: リレー（接点：最小適用負荷　DC12V　1mA）	

注意

※微小電流用接点の部品を選定してください。
　タイマーおよびスイッチの接点にはDC5Vまたは12V、1mA程度の負荷しかかかりませんので、動作しなくなります。
※グループ運転で発停入力をご使用する場合は、手元リモコンが必要です。

（3）入力仕様

項目	内容
入力信号	パルス信号（a接点）
パルス規格	

遠方／手元切換（CN32）が“手元”および、SWCがOFFに設定されている場合にのみ使用可能です。

6-4．試運転不具合時の対応

①異常停止時、リモコン表示部に４桁の点検表示が表れますので、不具合要因の点検をお願いいたします。

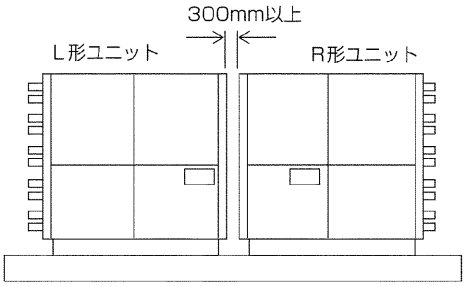
点検コード一覧

点検コード	点検内容		検出ユニット			
			室外	室内	リモコン	備考
0403	シリアル通信異常		○			
1102	吐出温度異常		○			
1111	低圧飽和温度センサー（TH２）		○			
1112	低圧飽和温度異常	液面検知温度センサー（TH３）	○			
1113		液面検知温度センサー（TH４）	○			
1143	圧縮機シェル温異常		○			
1301	低圧圧力異常		○			
1302	高圧圧力異常		○			
1500	冷媒量充填異常		○			
2500	漏水異常			○		
2502	ドレンポンプ異常			○		
2503	ドレン異常・フロートスイッチ作動			○		
4103	逆相／欠相異常		○			
4109	ファン異常			○		
4115	電源同期信号異常		○			
4121	高調波対策機器異常		○			
4200	VDCセンサー／回路異常		○			
4220	母線電圧低下保護		○			
4230	ヒートシンク過熱保護		○			
4240	過負荷保護		○			
4250	PM／母線電圧異常		○			
4260	冷却ファン異常		○			
5101	温度センサー異常	ルームサーモ（TH21）		○		
		室外吐出（TH1,TH11,TH12）	○			
5102		室内配管（TH22）		○		
		室外低圧飽和（TH２）	○			
5103		室内ガス側配管（TH23）		○		
		室外液面検知（TH３）	○			
5104		液面検知（TH４）	○			
5105		配管（TH５）	○			
5106		外気温（TH６）	○			
5107		液温（TH７）	○			
5108		SCコイル出口（TH８）	○			
5109	SCコイル入口温度センサー異常（TH９a）		○			
5110	インバーター放熱板温度センサー異常（THHS）		○			
5111	ファンコントローラー放熱板温度センサー異常（THBOX）		○			
5112	圧縮機シェル温センサー異常（TH10）		○			
5201	高圧圧力センサー異常（HPS）		○			
5210	低圧圧力センサー異常（LPS）		○			
5301	IDCセンサー／回路異常		○			
6600	多重アドレスエラー		○	○	○	
6602	伝送プロセッサーハードウェアエラー		○	○	○	
6603	伝送路Bus－Busyエラー		○	○	○	
6606	伝送プロセッサーとの通信異常		○	○	○	
6607	ACKなしエラー		○	○	○	
6608	応答なしエラー		○	○	○	
6831	MA通信受信異常（受信なし）				○	MAリモコンのみ
6832	MA通信受信異常（同期回復異常）				○	MAリモコンのみ
6833	MA通信送信異常（H／W異常）				○	MAリモコンのみ
6834	MA通信受信異常（スタートビット検出異常）				○	MAリモコンのみ
7100	合計能力エラー		○			
7101	能力コードエラー		○	○		
7102	接続ユニット台数オーバー		○			
7105	アドレス設定エラー		○			
7109	接続設定エラー		○			
7110	接続情報未設定エラー		○			
7111	リモコンセンサー異常			○		
7130	組合わせ異常		○			

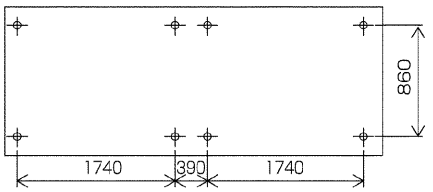
7. L形、R形の並列設置について

L形とR形を2台並列に設置する場合、L形ユニット（PFAV-P1120･P1400LM-E-L)とR形ユニット(PFAV-P1120･P1400LM-E-R）を下記の要領で設置してください。

(1) 設置間隔



ユニット間300mmの場合の基礎ボルトピッチ



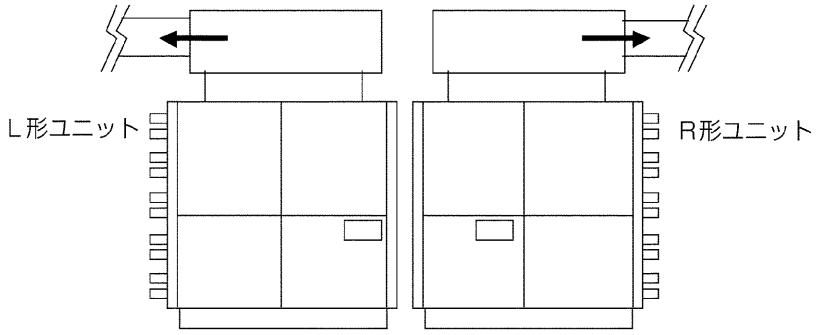
(2) 電源引込み

L形ユニットは左側から、R形ユニットは右側から行ってください。

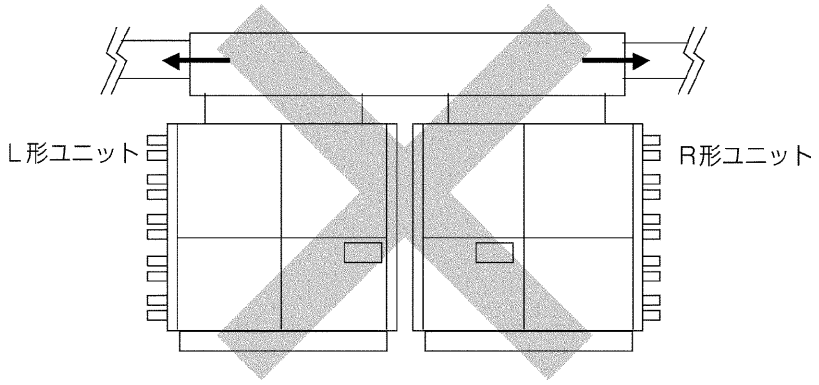
(3) ダクトの施工

ダクト施工時は下記の点に注意して実施してください。

●L形・R形ユニットはそれぞれ個別運転方式であるため、吹出ダクトは各ユニット毎に個別ダクトを設置してください。



●L形・R形ユニットを共通吹出ダクトでは使用しないでください。



（共通吹出ダクトで個別運転制御を行うと、
・ 一方のユニットが停止時に運転中のユニットから空気が逆流する。
・ 片側運転時の風量がダクト抵抗の減少により保証範囲を超える。
等の不具合が発生します。）

8. ダクト接続の設置に関するご注意

吸込ダクト取付の場合は、図8のように必ずマンホールを設けてください。空気冷却器の清掃時に必要です。吸込ダクトの形状は、ユニットの冷却器に均等に空気が流れるようにしてください。
ダクトの接続の位置については1-2 外形図を参照ください。

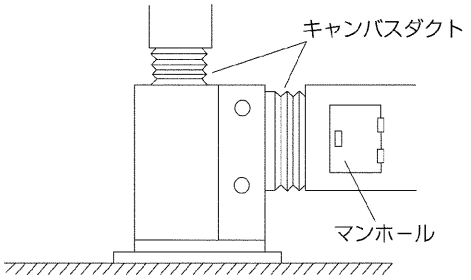


図8

9. 高圧ガス明細書

本製品は、高圧ガス保安法に基づき、冷媒ガスの圧力を受ける部分の材料、構造を遵守し、圧力試験が実施されています。冷媒ガスの圧力を受ける部分の部品を交換又は修理される場合は、資格（冷凍機器製造事業所）のある事業所に依頼されるようお願いいたします。

本製品の保安上の詳細は次のとおりです。

形　名	冷媒	設計圧力（MPa）		容　器	
		高圧	低圧	管外径× 長さ ×列数×段数（mm）	主な材料
PFAV-P1120LM-E-L,R	R410A	4.15	2.21	φ9.52 × 1430 × 4× 12× 4個	C1220T－OL
PFAV-P1400LM-E-L,R				φ9.52 × 1430 × 4× 12× 5個	

冷媒配管工事については，室外ユニット添付の「据付工事説明書」を参照してください。

以上で三菱電機パッケージエアコンの据付工事は完了です。
この説明書は試運転業者へ引き渡して保管するようにしてください。

試運転は別添付「取扱説明書」および室外ユニット添付の「据付工事説明書」を参照ください。

三菱電機株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-3(三菱電機ビル)
〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所(073)436-2111

WT04610X01